

令和7年度品目団体輸出力強化緊急支援事業

マカオにおける  
鶏卵市場調査  
報告書

令和8年1月

日本養鶏協会

# 目次

## **第1章 マカオの概要** ----- 4

1. マカオの地理的特徴
2. 基本情報(国土面積、人口、政治体制など)
3. 経済概況(主要産業、一人当たりGDP、今後の見通しなど)
4. マカオにおける養鶏業の歴史

## **第2章 マカオにおける貿易動向** ----- 9

1. 鶏卵の輸入動向
2. 鶏卵関連製品の輸入動向

## **第3章 鶏卵の流通状況** ----- 15

1. 鶏卵の流通構造・輸入ディストリビューター概況
  - (1) 流通構造
  - (2) 中国産鶏卵輸送ルート
  - (3) 外国産鶏卵輸送ルート
  - (4) 卸売市場
2. マカオにおける鶏卵の販売実態概要
  - (1) 鶏卵の販売実態
  - (2) 一般スーパーにおける販売実態
  - (3) 日系スーパーにおける販売実態
  - (4) 伝統市場における販売実態

**第4章 消費動向と食習慣** ----- 36

1. 消費動向（所得と消費に関する統計）

**第5章 輸入規制と手続き** ----- 38

1. 輸入規制・手続き・通関に関して
2. 鳥インフルエンザワクチン接種について-

**第6章 業界関係者からのヒアリング** ----- 42

1. 鶏卵卸売業者 A
2. ポルトガル料理レストラン B
3. 大手食品卸売業者 C
4. 食品・製品総合代理店 D（香港拠点）
5. 和食レストラン E
6. ベーカリー F
7. エッグワッフル店 G
8. 大手日系関連企業 H（香港拠点）

**第7章 まとめ** ----- 63

1. マカオにおける鶏卵の需給動向
2. マカオにおける日本産鶏卵のポジション整理

**第8章 参考文献** ----- 65

# 第 1 章 マカオの概要

## 1. マカオの地理的特徴

マカオ（澳門）は香港と同じく中国の特別行政区のひとつである。南海北岸、珠江口の西側に位置し、北は広東省珠海市と接し、東は直線距離約 63km を隔てて香港と向かい合っている。その他の方角は南海に面している。マカオは広東・香港・マカオ大湾区（グレーターベイエリア／GBA）の中心都市の一つであり、地理座標は東経 113 度 35 分、北緯 22 度 14 分付近に位置する。珠海市との直線距離は約 9km、道路距離はルートにより約 13～33km である。また、日本の東京都心部までの直線距離は約 2,800km である。

マカオは UTC+8 の時間帯に属し、日本との時差は 1 時間である。すなわち、マカオ時間は日本時間より 1 時間遅い。

マカオの総面積は約 33.3 km<sup>2</sup>であり、主にマカオ半島（9.3km<sup>2</sup>）、タイパ島（7.9km<sup>2</sup>）、コロアネ島（7.6km<sup>2</sup>）、コタイ地区（6.1km<sup>2</sup>）、新城区 A 区（1.4km<sup>2</sup>）、新城区 C 区（0.3km<sup>2</sup>）、および香港・珠海・マカオ大橋のマカオ口岸人工島（0.7km<sup>2</sup>）の 7 区域で構成されている。

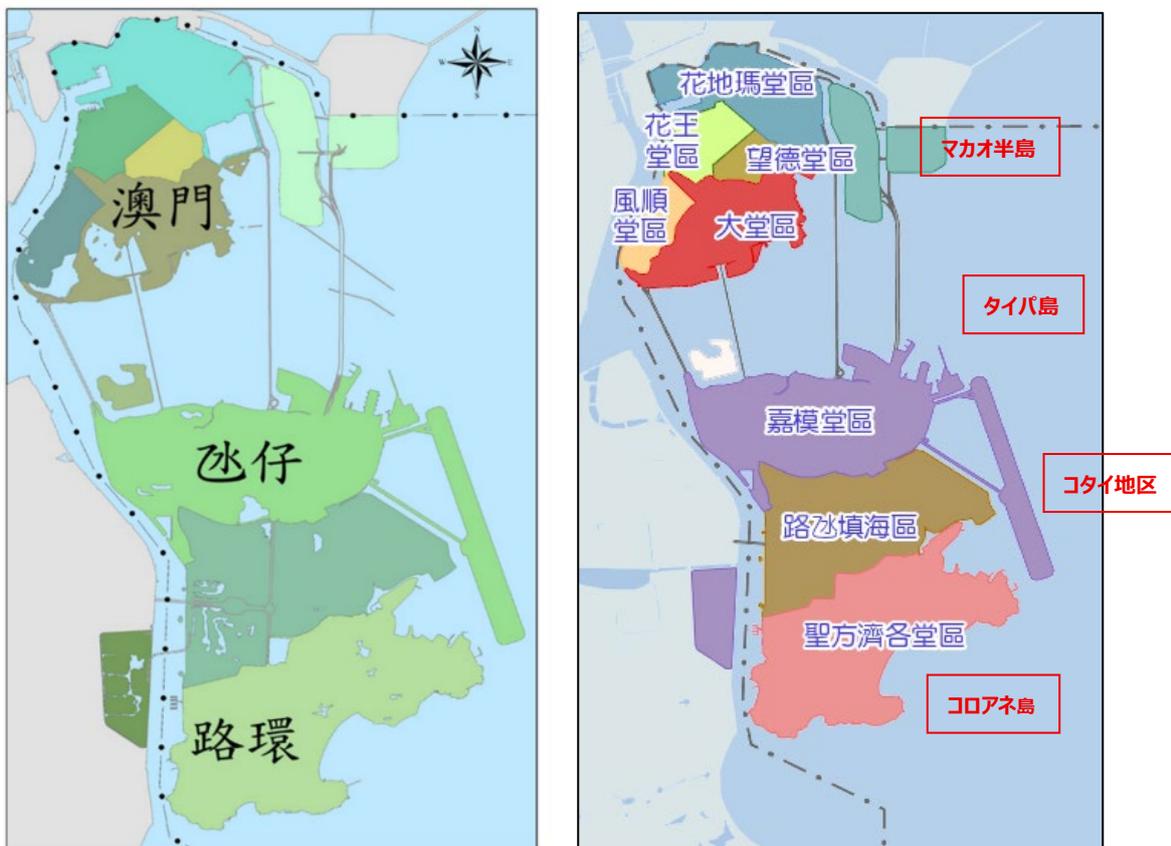
図 1 - 1 マカオ地図（広域）



出典：マカオ政府地図製作・地籍局（DSCC）

マカオ半島は都市開発の中心地であり、タイパ島とは4本の大橋によって結ばれている。もともと別々の島であったタイパ島とコロアネ島は埋め立てにより接続され、その埋立地は「コタイ地区」として開発が進められてきた。同地区には、多くの大型ホテルやリゾート施設が集積している。マカオの最高地点は、コロアネ島に位置する海拔 170.6m の丘である。

図 1 - 2 マカオ地図（地域区分）



出典：マカオ政府地図製作・地籍局（DSCC）

## 2. 基本情報

マカオはかつて小規模な漁村であり、牡蠣の産地として知られていた。このことから、船の停泊地を意味する「澳」の字を用いた「濠鏡」または「濠鏡澳」と呼ばれていた。マカオという名称は、漁民の間で信仰されていた中国の女神「天后（別名：媽祖）」に由来する。天后は航海の安全を守る神として信仰されており、1488年にはマカオ最古

の寺院である媽祖廟が建立された。16世紀中頃、最初にマカオを訪れたポルトガル人が地名を住民に尋ねた際、住民は寺院名を尋ねられていると誤解し、「媽閣（マーコック）」と答えた。この発音がポルトガル語で「MACAU」と音訳され、現在の地名の起源となった。その後、約400年以上にわたりマカオでは中国と欧州の文化が共存・融合し、多くの歴史的文化遺産が形成された。これによりマカオは東西文化が色濃く交差する都市として発展してきた。1999年12月20日、マカオは中国へ返還され、中華人民共和国マカオ特別行政区が正式に設立された。「一国二制度」政策の下、マカオは高度な自治権を有し、行政権、立法権、独立した司法権および終審権を保持している。2003年には特別行政区政府がカジノ事業を開放。ギャンブル産業の発展および中国本土からの個人観光客受け入れ政策を背景に、観光産業は急速に成長した。また、東アジア競技大会やポルトガル語圏競技大会など、国際的なスポーツイベントも開催されている。

表1-3 マカオにおける基本情報

正式名称	中華人民共和国マカオ特別行政区 (Macao Special Administrative Region (SAR) of the People's Republic of China)
面積	33.3平方キロメートル
人口	688,300人 (2024年時点)
人口密度	20,600人/平方キロメートル (2024年時点)
公用語	中国語 (書き言葉: 繁体字 / 話し言葉: 広東語)、ポルトガル語 ※英語は第3の公用語扱い
通貨	MOP / 澳門幣 (マカオパタカ) ※HKD1 = MOP1.03 (固定)
宗教	民間信仰、仏教、カトリック、プロテスタント、道教、キリスト教諸派、ヒンドゥー教、イスラム教、ユダヤ教
在留邦人	546名 (2024年10月1日時点)
主な産業	観光、カジノ業

出典: マカオ政府統計局 DSEC、マカオ新聞 The Macau Shim bun、外務省、在香港日本国総領事館をもとに作成

マカオでは5年ごとに国勢調査を実施しており、2021年調査の国籍別データでは、中国籍が最多（608,379人）、次いでフィリピン籍（33,896人）、ベトナム籍（12,217人）の順となっている。

表1-4 2021年国勢調査結果（国籍・年齢層別人口）

国籍	総人口	中国籍	ポルトガル籍	フィリピン籍	タイ籍	ベトナム籍	インドネシア籍	その他
総人口	682,070	608,379	8,991	33,896	762	12,217	5,859	11,966
0-14	98,981	95,089	1,678	1,169	12	37	21	975
15-24	69,965	66,090	821	1,156	39	684	208	967
25-34	125,160	104,568	953	9,816	73	4,362	1,445	3,943
35-44	113,372	90,598	1,504	12,116	181	3,089	2,959	2,925
45-54	95,140	80,569	1,339	6,917	246	3,305	1,014	1,750
55-64	96,640	91,031	1,348	2,330	173	730	90	938
≥65	82,812	80,434	1,348	392	38	10	122	468

出典：マカオ政府統計局 DSEC

### 3. 経済概況

マカオ特別行政区は中国南部に位置し、広東・香港・マカオ大湾区（グレーターベイエリア／GBA）に含まれる主要都市の一つである。地理的には中国本土および香港との結節点に位置し、地域連携の観点から重要な役割を担っている。世界的に知られる観光都市であり、カジノ産業の集積地として発展してきた点がマカオ経済の大きな特徴である。

マカオの経済は主に第三次産業を基盤としており、カジノ産業および観光業が中核を成している。第三次産業（サービス業）は域内総生産（GDP）の90.5%を占め、第二次産業（工業および建設業）は9.5%にとどまる。カジノ産業の成長は、ホテル業、小売業、飲食業、娯楽業など関連産業の発展を牽引してきた。2024年のカジノ総収入は2,274億パタカであり、カジノ施設数は30か所にのぼる。マカオ経済はカジノ産業への依存度が極めて高い構造となっており、この状態が経済リスク耐性の相対的な不足を招いている。マカオ特別行政区の長期的な繁栄と安定を確保するため、経済の適度な多角化を推進することが同区政府及び各界の共通認識となっている。

マカオは小規模な開放経済体であり、対外貿易の規模は比較的小さい。マカオ統計局（DSEC）の2024年統計によると、輸出入総額は約1,421億パタカであり、そのうち輸入額は約1,286億パタカ、輸出額は134億パタカである。輸出額の内訳は、地場製品輸出が14.9億パタカ、再輸出が120.0億パタカであり、恒常的な貿易赤字構造となっている。

輸入貨物の内訳は、消費財を中心に、資本財、原材料および半製品、燃料などで構成されている。輸入元は主に欧州連合および中国本土である。地場製品輸出では、医薬品および有機化学製品が主力であり、次いで既製服、銅および銅製品が続くが、輸出量は年々減少傾向にある。再輸出貨物については、ダイヤモンドおよびダイヤモンドジュエリーが中心であり、次いで機械設備および部品、時計、既製服などが挙げられる。

表1 - 5 マカオの各種経済指標

地域総生産（GDP）	4,033 億 パタカ
一人当たり GDP	58.8 万 パタカ
貿易収支	1,421.5 億 パタカ
労働力人口	54.7%
失業率	1.8%
就業者月収中央値	18,000 パタカ
輸出額	134 億 パタカ
輸入額	1,286 億 パタカ
コンテナ貨物総重量	265,216 トン
港湾コンテナ取扱量	125,932 TEU（標準コンテナ単位）
航空貨物総重量	108,001 トン
カジノ総収入	2,274 億 パタカ
政府総収入	1,100 億 パタカ
政府総支出	942 億 パタカ
マカオパタカ平均為替レート	100 USD = 803.7 パタカ

出典：マカオ政府統計局 DSEC、2025 澳門資料をもとに作成

#### 4. マカオにおける養鶏業の歴史

1990年代以前、マカオでは養鶏業が一定程度行われていた。しかし1998年に香港で発生した鳥インフルエンザの影響を受け、マカオにおける鶏肉の販売量は急減し、養鶏業は次第に縮小していった。

2016年2月から2017年2月にかけて、マカオでは鳥インフルエンザが計5回発生した。これを受け、マカオ政府は緊急措置として生体家禽の処分および生体家禽の市場取引の一時停止を実施した。第335/2016号行政長官指示に基づき、家禽（鶏、アヒル、ガチョウ、鳩、七面鳥、ウズラなど）の取得、飼育、繁殖および輸入を禁止する措置が講じられた。さらに2017年4月28日、民政総署は同年5月1日から「人と家禽の分離措置」を正式に施行することを発表し、マカオの市場における食用の生体家禽の販売を全面的に禁止した。この措置により、マカオに供給されるすべての家禽は珠海で屠殺および冷凍処理された後、数時間以内にマカオ市場へ輸入される体制となった。この結果、殻付き鶏卵および冷凍鶏肉を含む家禽関連製品の供給は現在、完全に輸入に依存する構造となっている。

## 第2章 マカオにおける貿易動向

### 1. 鶏卵の輸入動向

マカオにおける殻付き鶏卵（マカオ HS コード 04072100）の2024年の輸入実績は、金額ベースで1.8億パタカ、数量ベースで2.3億個である。

2020年以降、マカオの殻付き鶏卵の輸入量および輸入額は、いずれも継続的な増加傾向を示している。国別の輸入構成比を見ると中国産が最も高く、過去5年間（2020年～2024年）の輸入額構成比は83.5%、輸入量構成比は85.7%を占めている。これに次ぐ供給国は米国で、輸入額構成比は6.7%、輸入量構成比は7.6%である。日本産鶏卵については、輸入額構成比が5.4%、輸入量構成比が2.2%となっている。マレーシア産鶏卵は2020年および2021年に比較的多い輸入量を記録したが、2022年以降は急減している。その背景として、2022年にマレーシア国内で発生した卵不足を受け、小売業界が国内供給確保を目的に輸出停止を要請したことに加え、2023年7月に実施された価格統制などの政策変更が影響したと考えられる。このほかの供給国についても、輸入量および輸入額には年ごとのばらつきが見られる。

マカオでは単一供給国への依存リスクを低減する観点から、輸入先の多様化が進められているものの、現時点では中国産鶏卵への依存度が依然として高い水準にある。

日本産鶏卵の輸入動向を見ると、過去5年間の輸入額構成比はおおむね4～6%、輸入量構成比は1～2%の範囲で推移しており、大きな変動は見られない。

殻付き鶏卵の平均輸入単価を国別に比較すると、中国産が最も低く、平均0.74パタカである。次いで米国産が平均0.76パタカとなっており、単価は年々上昇傾向にある。パキスタン産鶏卵の平均単価は1.05パタカ、日本産は1.88パタカである。最も高単価なのはニュージーランド産鶏卵で、平均単価は7.41パタカとなっている。

（表2-1、2-2、図2-3、表2-4）

表2—1 マカオにおける殻付き鶏卵の国別輸入金額推移（単位：パタカ）

国名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	構成比
中国	98,180,353	101,237,308	136,807,491	171,990,622	183,570,747	83.5%
日本	6,718,757	8,676,471	11,191,163	8,121,349	9,814,137	5.4%
アメリカ	21,093,038	22,545,047	9,094,373	1,943,049	481,328	6.7%
タイ	3,040,195	2,634,923	2,554,519	2,459,172	2,744,065	1.6%
パキスタン	0	0	147,600	265,600	494,000	0.1%
オーストラリア	118,689	139,051	86,868	60,492	127,185	0.1%
韓国	526,152	2,000	0	0	54,225	0.1%
イタリア	0	93	0	0	1,440	0.0%
ニュージーランド	224,864	102,875	66,066	34,425	0	0.1%
マレーシア	8,232,952	11,347,564	1,335,770	9,000	0	2.5%
デンマーク	180,733	185,708	8,500	0	0	0.0%
フランス	1,027	0	0	0	0	0.0%
合計	138,316,760	146,871,040	161,292,350	184,883,709	197,287,127	100.0%
日本構成比推移	4.9%	5.9%	6.9%	4.4%	5.0%	

出典：マカオ政府統計局 DSEC

構成比解説：2020～2024 年各国の輸入金額/2020～2024 年合計輸入金額

表2—2 マカオにおける殻付き鶏卵の国別輸入量推移（単位：千個）

国名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	構成比
中国	144,472	144,419	177,456	221,558	235,685	85.7%
日本	3,469	4,424	6,005	4,488	5,302	2.2%
アメリカ	31,679	34,727	12,779	2,458	487	7.6%
タイ	2,634	2,149	1,997	1,929	2,090	1.0%
パキスタン	0	0	145	250	467	0.1%
オーストラリア	46	71	50	21	38	0.0%
韓国	405	1	0	0	35	0.0%
イタリア	0	0	0	0	0	0.0%
ニュージーランド	39	13	9	4	0	0.0%
マレーシア	14,151	19,126	2,185	1	0	3.3%
デンマーク	80	77	3	0	0	0.0%
フランス	0	0	0	0	0	0.0%
合計	196,975	205,007	200,629	230,709	244,104	100.0%
日本構成比推移	1.8%	2.2%	3.0%	1.9%	2.2%	

出典：マカオ政府統計局 DSEC

構成比解説：2020～2024 年各国の輸入量/2020～2024 年合計輸入量

図 2—3 マカオにおける殻付き鶏卵の国別輸入金額推移（単位：パタカ）

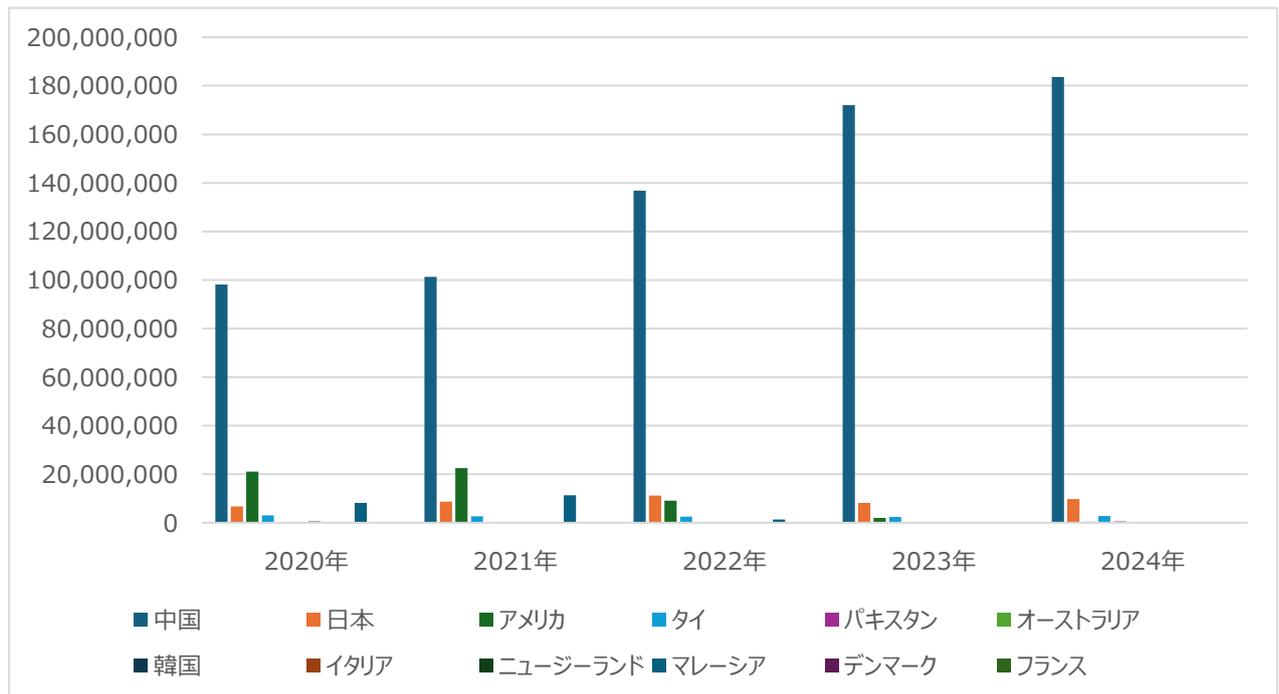


表 2—4 マカオにおける殻付き鶏卵の一個当たり輸入単価推移（単位：パタカ／個）

国名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	平均
中国	0.68	0.7	0.77	0.78	0.78	0.74
日本	1.94	1.96	1.86	1.81	1.85	1.88
アメリカ	0.67	0.65	0.71	0.79	0.99	0.76
タイ	1.15	1.23	1.28	1.27	1.31	1.25
パキスタン	-	-	1.02	1.06	1.06	1.05
オーストラリア	2.58	1.96	1.74	2.88	3.35	2.5
韓国	1.3	2	-	-	1.55	1.62
イタリア	-	-	-	-	-	-
ニュージーランド	5.77	7.91	7.34	8.61	-	7.41
マレーシア	0.58	0.59	0.61	9	-	2.7
デンマーク	2.26	2.41	2.83	-	-	2.5
フランス	-	-	-	-	-	-

出典：マカオ政府統計局 DSEC

## 2. 鶏卵関連製品の輸入動向

マカオでは殻付き鶏卵以外にも、新鮮な殻付きアヒル卵や殻付きウズラ卵などの家禽卵が輸入されている。これに加え、凍結液卵製品も輸入対象となっている。品目別に見ると殻付き鶏卵の輸入額が最も多く、これに次いで凍結液卵の輸入額が大きい。過去5年間における凍結全卵の輸入金額構成比は3.2%であり、総輸入額は約2,800万パタカである。続いて凍結卵黄が輸入されており、輸入金額構成比は0.9%、総輸入額は約750万パタカである。

表2-5 HSコードと内容説明

HSコード	説明内容
4072100	鶏（キジ科家禽）卵、殻付き、新鮮だが孵化用の受精卵は除外
4072910	アヒル卵、殻付き、新鮮だが孵化用の受精卵は除外
4072990	ウズラ卵、新鮮；ガチョウ卵、殻付き、新鮮だが孵化用の受精卵は除外；家禽卵、殻付き、新鮮だが鶏卵、鴨卵または孵化用の受精卵は除外
4089900	家禽卵、殻なし、新鮮、蒸したり茹でたり、型に圧縮、冷凍またはその他の方法で保存、砂糖や他の甘味料の有無にかかわらず、卵黄は除外（全卵液、新鮮、冷凍）；全卵液、新鮮、冷凍
4081900	卵黄、新鮮、蒸したり茹でたり、型に圧縮、冷凍またはその他の方法で保存、砂糖や他の甘味料の有無にかかわらず

出典：JETRO ウェブサイト

表2-6 マカオにおける鶏卵関連品の品目別（HSコード別）輸入金額推移（単位：パタカ）

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	構成比
4072100	殻付き鶏卵	138,316,760	146,871,040	161,292,350	184,883,709	197,287,127	94.8%
4072910	殻付き卵（アヒル）	533,563	582,803	554,666	876,568	899,475	0.4%
4072990	殻付き卵（その他）	680,084	742,271	984,574	1,226,871	2,519,838	0.7%
4089900	全卵・液卵	4,650,773	5,733,456	3,953,523	6,036,777	7,897,048	3.2%
4081900	卵黄・液卵	1,088,837	1,047,884	1,442,608	2,631,404	1,311,508	0.9%

出典：マカオ政府統計局 DSEC

凍結液卵の輸入動向を見ると、中国からの輸入量は年々増加している。一方で、中国以外の国・地域からの輸入量は減少傾向にある。2024年にマカオが輸入した凍結液卵の産地は、中国、日本、フランスの3地域に限

られていた。国・地域別に見ると中国産の輸入量が最も多く、同年の輸入金額は約 780 万パタカに達している。これに対し、日本産凍結液卵の輸入規模は小さく、2024 年の輸入金額は約 3.5 万パタカにとどまっている。

表 2 - 7 凍結液卵（HSコード 04089900）の国別輸入金額推移（単位：パタカ）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
中国	403634	1,704,973	2,121,991	5,914,785	7,858,736
日本	741,003	882,157	652,042	100,500	35,118
台湾	26,251	0	10,656	1,800	0
アメリカ	1,560,497	1,963,135	651,838	0	0
その他	1,919,388	1,183,191	516,996	19,692	3194

出典：マカオ政府統計局 DSEC

2024 年における凍結液卵の輸入金額および輸入量を基準として 1 キログラム当たりの凍結液卵の平均価格を算出すると、中国産凍結液卵の平均価格は 1 キログラム当たり 19.9 パタカ、日本産は 38.6 パタカ、フランス産は 76.0 パタカである。

表 2 - 8 凍結液卵（HSコード 04089900）の国別輸入金額と輸入量

国別	輸入金額	輸入量 (KG)	MOP/1KG
中国	7,858,736	395,522	19.9
日本	35,118	910	38.6
フランス	3,194	42	76

出典：マカオ政府統計局 DSEC

凍結卵黄の輸入動向を見ると、2020 年から 2024 年までの 5 年間に於いて、輸入先は複数の国・地域に分散している。国・地域別に見ると中国からの輸入が最も多く、次いでフランスおよびアメリカが続いている。これら以外の国・地域からも輸入が行われており、デンマーク、ベルギー、カナダ、ウクライナなどが含まれる。

表2－9 凍結卵黄（HSコード04081900）の国別輸入金額推移（単位：パタカ）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
中国	56,182	85,939	806,137	2,383,857	801,733
日本	0	17,984	391	38,473	0
台湾	0	0	0	0	35,381
フランス	401,224	474,347	205,242	128,392	177,727
アメリカ	435,594	283,017	118,623	2,565	0
その他	631,431	186,597	312,215	78,117	296,667

出典：マカオ政府統計局 DSEC

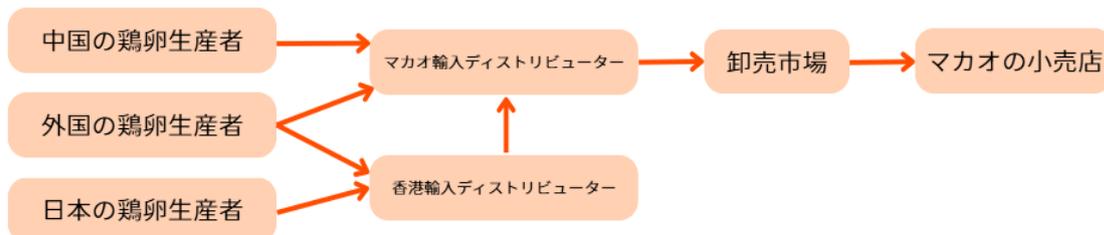
# 第 3 章 鶏卵の流通状況

## 1. 鶏卵の流通構造・輸入ディストリビューター概況

### (1) 流通構造

マカオでは家禽の飼育が禁止されている為、鶏卵供給は全て海外からの輸入に依存し、鶏卵は中国産鶏卵と、日本産をはじめとする外国産鶏卵に大別される。中国産鶏卵は産地で洗浄・包装後に、生産企業が保有する独自の輸送ルートを通じてマカオへ輸送される。その後、マカオの輸入ディストリビューターを介し、2 回目の洗浄および包装を経て、卸売市場や小売店へ配送される。一方、日本産をはじめとする外国産の殻付き鶏卵は、香港の輸入ディストリビューターを経由して主に船でマカオへ輸送される。マカオ到着後は、マカオの輸入ディストリビューターが大手スーパーマーケットをはじめとする小売店や飲食店へ供給する流通ルートに限定されている。なお、この詳細は「第 6 章 業界関係者からのヒアリング」にて、関係者へのインタビュー結果としていくつかの個別事例を取り上げているため、参考にされたい。

図 3 - 1 2025 年 8 月現在のマカオにおける鶏卵流通構造



### (2) 中国産鶏卵輸送ルート

中国の鶏卵産業は、研究開発、飼養、販売までを含む一連の生産体制を有しているため、殻付き鶏卵は閉鎖型の鶏舎で生産されている。生産された鶏卵は、検査、洗浄、殺菌、選別、包装、積み込みといった厳格な工程を経た後、産地（例えば湖北省や重慶市など）における税関検査を通過し、マカオへ輸送される。中国の大手生産業者が生産した殻付き鶏卵は、産地で包装された後、マカオの現地卸売業者が直接引き取る流通形態が採られている。一方、一部の生産業者や中国国内の農家から集荷された殻付き鶏卵に

については、マカオ現地業者による 2 回目の洗浄、選別、包装および積み込みが行われる。その後、卸売市場を経由して、スーパーマーケットや街市（ウェットマーケット）などの小売店へ配送される。

表 3 - 2 主要な中国鶏卵企業

地区	企業・グループ名	ウェブサイト
重慶市	重慶市長寿区標杆養鶏股份合作社	<a href="http://www.cqbiaogan.com/">http://www.cqbiaogan.com/</a>
湖北省	天門市全盛禽蛋貿易股份有限公司 (湖北全盛生態農業發展有限公司)	<a href="http://hbquansheng.com/">http://hbquansheng.com/</a>
湖北省	湖北双港農業科技貿易股份有限公司	<a href="https://www.chinadrink.net/com/shuanggangny/">https://www.chinadrink.net/com/shuanggangny/</a>
湖北省	湖北鑫盛农牧股份有限公司	<a href="http://www.hbxsnm.cn/">http://www.hbxsnm.cn/</a>

中国産殻付き鶏卵は卸売用の大容量パッケージと家庭用の小容量パッケージに分けられている。



(写真左) 香港文匯報の掲載記事で、湖北省の双港農業科技貿易株式会社（湖北双港農業科技貿易股份有限公司）が有殻鶏卵を卸売用の大容量パッケージに手配する過程を掲載

(写真右) 卸売用の大容量パッケージ鶏卵がマカオのスーパーマーケット向けに置かれている様子



(写真) 「鮮喔喔谷物蛋」は重慶市長寿区標杆養鶏株式協同グループ（重慶市長寿区標杆養鶏股份合作社）生産、パッケージの上に「養鶏場から直送、中間流通なし、新鮮・安全を保証」のロゴ（右拡大図）が記載されている

鶏卵卸売業者 A より、マカオへ輸出される卵は全て「農場名」「農場コード」「生産日付」の 3 点をパッケージか卵に印字することが義務付けられているという情報を得た。当該規則は市政署や税関の W E B ページ上にて公開されていなかったため、2025 年 12 月 3 日にマカオの食品検査検疫部門に電話で問い合わせを実施した（第 5 章に詳細記載）。

中国から輸入される多くの鶏卵がバラ詰めマカオに入っており、それらには生産情報が一切明記されていないため、「印字」を行う必要があることからこのような処理がされているとのこと。具体的には、加工場の略称、加工日付、農場コードを卵殻に印刷する必要がある。一方、他国から輸入される鶏卵で包装がなされ、パッケージに関連情報が明記されている場合は、卵殻への「印字」は不要とのこと。詳細は、第 5 章に記載している。



（写真左）重慶市長寿区標杆養鶏株式協同グループが生産した鶏卵の殻上には「標杆（標杆）」のロゴと生産年月日が表示されている

（写真右）湖北省天門市の全盛禽蛋貿易株式会社（天門市全盛禽蛋貿易股份有限公司）が生産した鶏卵の殻上には「天門全盛（天門全盛）」のロゴと生産年月日が表示されている

### （3）外国産鶏卵輸送ルート

マカオで流通する外国産の殻付き鶏卵の大部分は、地場の卸売業者や香港の輸入業者を介して、原産地からマカオへ輸送されている。日本産とはじめとする外国産鶏卵は、外国生産業者によって洗浄・刻印後、卸売業者による選別・包装を経てマカオ唯一の卸売市場へ搬入される。個人商店や街市（ウエットマーケット）へ流通するほか、大手企業の卸売部門では自社系列スーパーマーケット（PARKnSHOP 等）へ直接配送するケースもある。

なお、日本産をはじめとする外国産殻付き鶏卵の多くは、香港のディストリビューターを経由してマカオへ輸入されている。マカオの主要な鶏卵輸入ディストリビューターは下記の通り。（当社調べ）

表 3 - 3 マカオの主要な鶏卵輸入ディストリビューター

マカオ地場系企業・グループ名	取扱鶏卵産地			取扱鶏卵生産者（一部）
	日本	中国	その他	
興隆貿易行		○		珠海市鴻福隆蛋品有限公司、珠海市順明有限公司、 仙桃市双円蛋品有限責任公司
朝陽蛋業一人有限公司		○		湖北宇祥畜禽有限公司
振興蛋號 AG.COM.CHAN HENG OVOS	○	○	パキスタン	隨州玉斌食品有限公司
泓昌凍肉食品有限公司		○		梧州市温氏農牧有限公司
利祥食品供應有限公司		○		湖南怡武衣牧科技有限公司
裕昌蛋莊		○		湖北天茂生態衣業送展有限公司

表 3 - 4 香港の主要な鶏卵輸入ディストリビューター

香港企業・グループ名	取扱鶏卵産地			取扱日本産鶏卵商品
	日本	中国	その他	
PARKnSHOP (HK) Limited	○	○	タイ	福裕亭たまご
SHUN SHING (H.K.) TRADING CO., LTD.			タイ	
ZEN-NOH International Hong Kong Litimited Macau Branch	○			KAWAII ! TAMAGO、蘭王、情熱たまご
AJI-NO-CHINMI CO.(HK) LTD.	○			新紀元卵
CPF Hong Kong Company Limited			タイ	—
Widerext International Co., Limited			韓国	—
King Glory Inv Dev Ltd	○			日本国産鶏卵、和の卵、宮崎の宝、安心 みなとのう
Kyoto Japanese Food (HK) Co Ltd	○			夢王
Sun Fung Egg Products Trading Limited	○			八千代のたまご
Shan Yat Food Co., Ltd	○			和 白の輝き
GOGO FOODS CO., LTD.	○			国産太陽卵、HACCP 型 GP センター 新しいたまご（落水正商店）

殻付き鶏卵のパッケージを見ると、包装には卸売業者名が明記されており、卵殻には生産者刻印が施されて産地を識別できるようになっている。



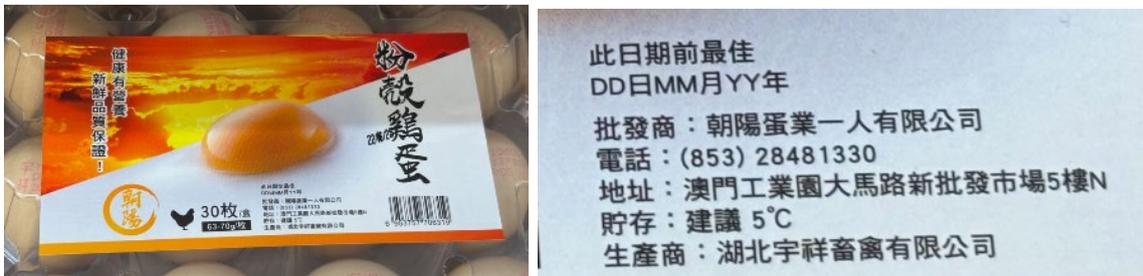
(写真) パッケージ外観



(写真) ラベル表示。興隆貿易行が取り扱う「家鄉濃味蛋（ふるさと味の濃いたまご）」については、パッケージに原産地として「中国」のみが表示されており、生産業者名は記載されていない



(写真) 卵殻に刻印された「双圆（双円）」の文字から、生産者が湖北省における仙桃市双円蛋品有限責任公司であることが判別可能



(写真) 朝陽蛋業一人有限公司によるピンク殻鶏卵は、包装用紙に卸売業者と生産業者の双方が明確に表示されている

#### (4) 卸売市場

マカオにおける生鮮食品の卸売市場は、澳門新批發市場（マカオ新卸売市場）である。同市場は市政署により南粵集團有限公司（南粵集團株式会社）へ管理が委託されている。

マカオ新卸売市場は地上 11 階、地下 3 階で構成されている。地下 1～3 階は駐車場として利用されており、地上 1～2 階は野菜および果実の卸売ゾーンである。3 階には冷蔵鶏肉およびその他商品の卸売ゾーンが配置され、殻付き鶏卵の卸売は 4 階に集約されている。

表3-5 マカオ卸売市場概況

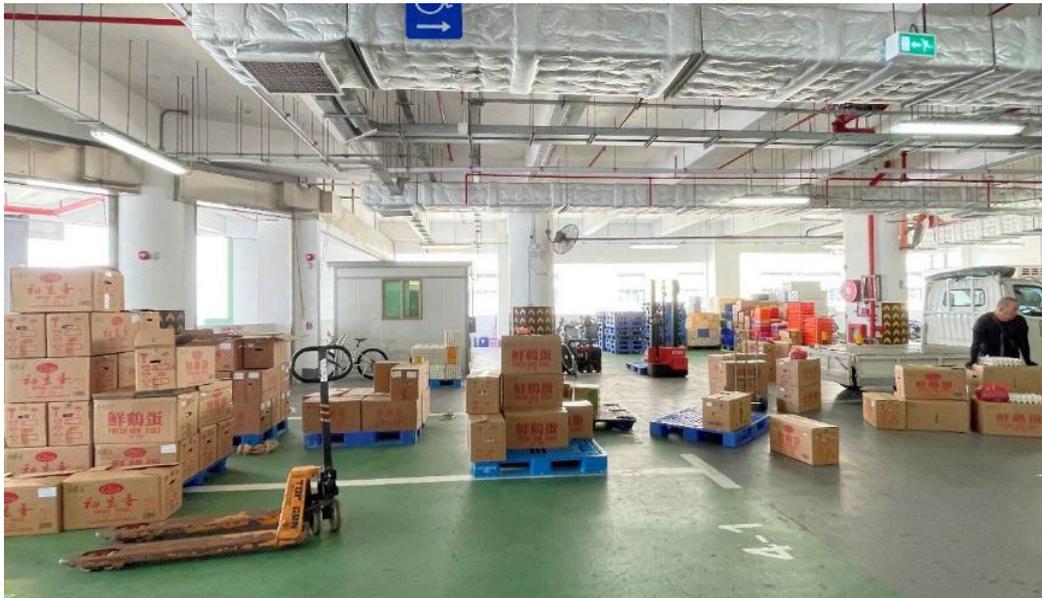
卸売市場名	澳門新批發市場（マカオ新卸売市場）
位置	澳門半島青洲工業園大馬路珠澳跨境工業区澳門園区内 B1A 地段
始用時間	2017年12月4日
エリア	6,200 平方メートル
ブース数	222ヶ所（うち127ヶ所は卸売業者への賃借用、103ヶ所は荷捌き車用スペース）



（写真左）マカオ新卸売市場外観



（写真右）階層案内板



（写真）マカオ新卸売市場4階



(写真) 大手食品卸売業者 C (第 6 章にて詳細記載) の冷蔵庫に保存されている鶏卵

## 2. マカオにおける鶏卵の販売実態概要

### (1) 鶏卵の販売実態

マカオにおいて一般消費者向けに鶏卵を販売する小売形態は、モダン・トレードとトラディショナル・トレードの 2 つに大別される。モダン・トレードとは、スーパーをはじめとする近代的な小売店舗を指す。一方、トラディショナル・トレードは、街市（ウェットマーケット）や路面に立地する小規模な個人商店など、伝統的な小売形態を指す。

日本産鶏卵については、大型スーパーマーケットや地元系小売店において取り扱われている一方、トラディショナル・トレードや街市では取り扱われていない。来来超級市場をはじめとする地元系小売店や、DON DON DONKI などの中高級・日系小売店では、複数種類の日本産殻付き鶏卵が販売されている。鶏卵の販売における主な温度帯は冷蔵であるが、一部の店舗では常温で販売される場合もある。また、現地視察を行ったセブン-イレブンおよび Circle K では、いずれの店舗においても鶏卵の取り扱いの確認されなかった。

マカオにおける主要な小売店の概要は下記の通り。

表3-6 マカオにおける主要な小売店一覧

分類	店舗ブランド名	価格帯	店舗数	常温	冷蔵	取扱いのある日本産鶏卵（商品名）
日系小売店	DON DON DONKI	中～高級	2	○	○	KAWAII！TAMAGO
						新紀元卵
						蘭王
						情熱たまご
日系デパート	新八佰伴	中～高級	1	-	○	国産 太陽卵
						和 白の輝き
						和の卵
						蘭王
地場系スーパー	來來超級市場	手ごろ	41	-	○	KAWAII！TAMAGO
						新紀元卵
						たまごの初恋
	Grand Mart	中～高級	2	-	○	夢王
						HACCP型GPセンター 新しいたまご
						安心 みなとのう
						夢王
						八千代のたまご
						和の卵
						日本国産鶏卵
	オリーブの瞳					
	播州の赤たまご					
たまごの初恋						
PARK n SHOP	手ごろ	7	○	○	福稲亭たまご	
新苗超級市場	手ごろ	21	○	○	安心 みなとのう	
					和 白の輝き	
					八千代のたまご	
宏基超級市場	手ごろ	5	-	○	HACCP型GPセンター 新しいたまご	
大昌食品市場	手ごろ	3	-	○	取り扱いなし	
新花城超級市場	手ごろ	15	○	-	日本国産鶏卵	
					八千代のたまご	
					和の卵	
地場系小売店	28環球食品市場	中～高級	2	-	○	日本国産鶏卵 安心
						和の卵
	大柔屋	手ごろ	1	-	○	夢王
						和の卵
伝統小売店	伝統市場・個人店	多数	多数	○	-	宮崎の宝
						国産 太陽卵
						和 白の輝き
						八千代のたまご
						取り扱いなし

マカオにおいては、一般的なスーパーマーケットや日系スーパーなど、市民がよく利用する食料品店で中国産（湖北省、広東省、重慶市、広西省など）、日本産、タイ産、韓国産などの鶏卵が主に販売されているが、その中でも特に特徴的な点として、パキスタン産の鶏卵も販売されていることが挙げられる。



(写真) 振興蛋號 AG.COM.CHAN HENG OVOS により輸入されたパキスタン産の鶏卵が大昌食品市場で販売されている。1パッケージ 12 個入り、XL サイズ

## (2) 一般スーパーにおける販売実態

マカオにおける地元系スーパーマーケットとしては、來來超級市場 Royal supermarket、新苗超級市場 San Miu Supermarket、宏基超級市場 Vang Kei Supermarket、大昌食品市場 Dah Chong Hong Supermercado（マカオ万勝グループ）などが挙げられる。これらのチェーン系スーパーマーケットは店舗数が多く、マカオ半島ではおよそ 300m 程度歩けばいずれかのスーパーマーケットに到達できるほど高い密度で展開されている。一方で 28 環球食品市場 28Global Food Mart や大柔屋 yoyo.casa など、個人経営による小売店も存在する。これらの店舗は主に海外食品を販売しており、チェーン展開する大型スーパーマーケットとは商品構成の面で差別化が図られている。

### ① 來來超級市場 Royal supermarket

來來超級市場は、マカオで最も規模の大きいチェーン型スーパーマーケットの一つである。最初の來來超級市場は 1997 年に正式に営業を開始しており、現在まで約 28 年の歴史を有している。來來超級市場では 5 万点以上の商品を取り扱っており、価格帯は比較的安く設定されている。店内で販売されている商品の多くは中国からの輸入品であり、販売価格は中国人民元建て価格に近い水準となっている。



(写真) 來來超級市場の冷蔵鶏卵コーナー

來來超級市場で販売されている殻付き鶏卵は、すべて冷蔵保存されている。取扱商品の多くは中国産鶏卵であり、これに次いで日本産の新紀元卵およびタイ産の KCF ブラウン卵が販売されている。パッケージを見ると、30 個入りの大容量パッケージは、裕昌蛋莊および朝陽蛋業によって選別された湖北省産鶏卵である。その他の鶏卵は主に 10 個入りパッケージで販売されている。

表 3 - 7 來來超級市場での鶏卵販売価額例 (2025 年 5 月 27 日時点)

鶏卵ブランド	産地	ディストリビューター	1 パック 数量	表示価格 (バツカ)	販売価額 (バツカ)	平均価格/個 (バツカ)
新紀元卵	日本	AJI-NO-CHINMI CO.(HK) LTD.	10	36.5	29.8	2.98
朝陽赤殻鶏卵	中国	朝陽蛋業一人有限公司	10	15.8	12.0	1.20
KCF タイ新鮮ブラウン卵 (オメガ 3 付加)	タイ	SHUN SHING (H.K.) TRADING CO., LTD.	10	23.8	23.8	2.38



(写真) 10 個入り朝陽による赤殻鶏卵



(写真) 10 個入りと 30 個入りの裕昌蛋莊による農家初生卵



(写真) 來來超級市場で販売されている日本産新紀元卵とタイ産 KCF ブラウン卵（オメガ 3 付加）

## ② 新苗超級市場 San Miu Supermarket

マカオ新苗スーパー株式会社は 1990 年に設立され、スーパーマーケットの小売運営に加え、輸出入貿易および商品卸売を手がける企業である。現在 21 店舗のチェーン型スーパーマーケットを展開しているほか、延床面積約 4,600m<sup>2</sup> の総合倉庫、西洋菓子・パン工場、ならびに鶏卵加工工場を保有している。

表 3 - 8 來來超級市場での鶏卵販売価額例（2025 年 5 月 27 日時点）

鶏卵ブランド	産地	ディストリビューター	1 パック 数量	表示価格 (パタカ)	販売価額 (パタカ)	平均価格/個 (パタカ)
KCF タイ新鮮ブラウン卵 (JUMBO SIZE)	タイ	SHUN SHING (H.K.) TRADING CO., LTD.	10	26.2	26.2	2.62

## ③ 百佳超級市場 (PARK n SHOP)

香港の屈臣氏グループ傘下の PARK n SHOP は 1972 年に設立され、香港で最も規模の大きいスーパーマーケットチェーンであり、マカオにも店舗を展開している。香港の PARK n SHOP に比べて、マカオの PARK n SHOP は規模が比較的小さい。



(写真左) PARK n SHOP の外観



(写真中央) 冷蔵鶏卵コーナー



(写真右) 冷蔵鶏卵コーナーの隣に段ボール箱を積み上げ、タイ産の卵が常温で保存されている

香港の PARK n SHOP が日本産鶏卵を多く販売しているのに対して、マカオの PARK n SHOP では日本産の鶏卵は比較的に少なく、福稻亭たまごというブランド（白卵とブラウン卵）のみの取り扱いである。最も取り扱いが多い鶏卵は中国産のものであり、50 個入りの超大容量パッケージもみられる。



(写真) マカオ PARK n SHOP で販売される中国広西省産の初生卵。竹バスケットに 50 個入りの超大容量パッケージ

#### ④ 新花城超級市場 Sunsco Supermarket

新花城超級市場は、マカオにおいて展開されているローカルの中小規模スーパーマーケットであり、マカオ全域に 15 店舗を展開している。各店舗の規模はおおむね 100～400m<sup>2</sup>が中心である。卵の売り場スペースは狭く、常温で鶏卵がぎっしりと並べられている。



(写真) SunSCO Supermarket の外観

表 3 - 9 新花城超級市場での鶏卵販売価額例 (2025 年 9 月 12 日時点)

鶏卵ブランド	産地	ディストリビューター	1 パック 数量	表示価格 (パタカ)	販売価額 (パタカ)	平均価格/個 (パタカ)
日本国産鶏卵	日本	King Glory Inv Dev Ltd	10	35.9	27.9	2.79
八千代のたまご	日本	Sun Fung Egg Products Trading Limited	10	29.9	29.9	2.99
和の卵	日本	King Glory Inv Dev Ltd	10	34.9	34.9	3.49

### ⑤ Grand Mart

Grand Mart は來來超級市場の高級ブランドラインのスーパーマーケットで、マカオ半島とタイパにそれぞれ 2 店舗展開している。食料品のほか日用品も幅広く取り揃えており、実用的な価格設定と週替わりのプロモーションで近隣住民の需要に応えている。日本・韓国・東南アジアなどの輸入食品も販売しており、品揃えの多様性が特徴。鶏卵の売り場スペースは比較的広く、取扱品目も多い。鶏卵は冷蔵保存で販売されている。



(写真左) Grand Mart の外観



(写真右) Grand Mart の冷蔵鶏卵売場

表3-10 Grand Martでの鶏卵販売価額例（2025年9月19日時点）

鶏卵ブランド	産地	ディストリビューター	1パック 数量	表示価格 (バタカ)	販売価額 (バタカ)	平均価格/個 (バタカ)
播州の赤卵	日本	AJI-NO-CHINMI CO.(HK) LTD.	10	44.8	44.8	4.48
卵の初恋	日本	Shan Yat Food Co., Ltd	10	33	33	3.33
和の卵	日本	朝陽蛋業一人有限公司	10	38.8	38.8	3.88
Pakistan XL white Egg	パキスタン	SHUN SHING (H.K.) TRADING CO., LTD.	23	26.2	26.2	2.62

⑥ 大柔屋 yoyo.casa

マカオ南湾大馬路に位置する大柔屋は個人経営の台湾と日本の食品専門小売店で、飲料、調味料、スナック、野菜果物、冷凍肉類などを取り扱っている。



(写真左) 大柔屋の外観

(写真右) 店内には中国産、台湾産、日本産など海外輸入のスナックが詰まったダンボール箱が積まれている



(写真左) 鶏卵は冷蔵棚に整然と並べられて販売されており、日本産の鶏卵が7種類、KCFのタイ産鶏卵が2種類、中国産鶏卵が2種類。その隣に、キムチ豆腐やチーズが陳列されている

(写真右) 「日式」と表記された煮卵

表3-11 大柔屋での鶏卵販売価額例（2025年5月27日時点）

鶏卵ブランド	産地	ディストリビューター	1パック 数量	表示価格 (パタカ)	販売価額 (パタカ)	平均価格/個 (パタカ)
和 白の輝き	日本	Shan Yat Food Co., Ltd	10	26.9	26.9	2.69
中国農場赤黄鶏卵	中国	振興蛋號 AG.COM.CHAN HENG OVOS	10	13.9	13.9	1.39
KCF タイ新鮮ブラウン卵 (JUMBO SIZE)	タイ	SHUN SHING (H.K.) TRADING CO., LTD.	10	24.9	24.9	2.49

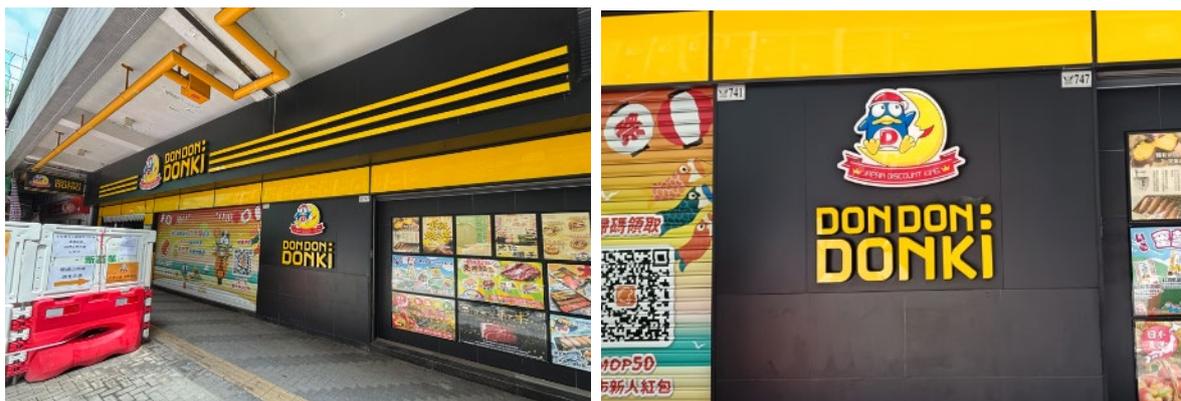
### （3）日系スーパーにおける販売実態

マカオにおける代表的な日系小売店は DON DON DONKI と新八佰伴 New Yaohan である。

両店舗共に日本産鶏卵のみを販売しており、中国や他国産の鶏卵は販売されていない。鶏卵の小売価格は  
來來をはじめとした地元系スーパーマーケットとほぼ同価格であるが、他の輸入商品（飲料など）は地場系スー  
パーマーケットよりやや高価格である。

#### ① DON DON DONKI

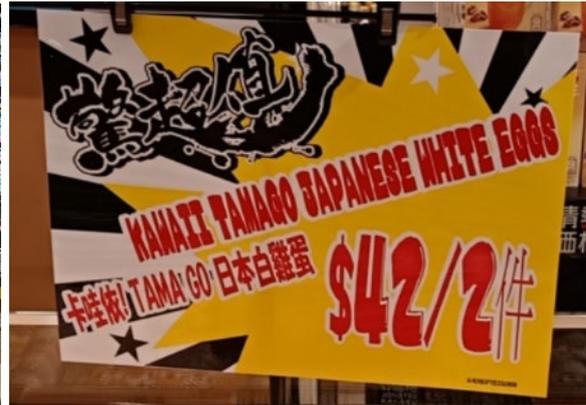
マカオにおける DON DON DONKI は Pan Pacific International Holdings Corporation  
(PPIH) の傘下であり、2021年9月9日より展開。店舗の面積は約 1,780 m<sup>2</sup>で、24 時間営業で、香  
港と同様に生鮮食品や惣菜、生活雑貨が販売されている。



（写真）DON DON DONKI（マカオ）の外観



(写真) DON DON DONKI 内には鶏卵専用コーナーがあり、面積はかなり広く、日本産鶏卵のみを販売している。鶏卵は冷蔵で保存されており、豆腐やこんにゃくなどの食品と同じ棚に並べられ、隣にはスナックや飲み物が陳列されている



(写真) 市場調査訪問時、同店では KAWAII TAMAGO 鶏卵のプロモーションを行っており、2 パックで 42 パタカ（1 個当たり 2.1 パタカ）であった

表 3 - 12 DON DON DONKI の鶏卵販売価額例（2025 年 5 月 27 日時点）

鶏卵ブランド	産地	ディストリビューター	1パック 数量	表示価格 (パタカ)	販売価額 (パタカ)	平均価格/pc (パタカ)
新紀元卵	日本	AJI-NO-CHINMI CO.(HK) LTD.	10	39.0	29.9	2.99
KAWAII ! TAMAGO	日本	ZEN-NOH International Hong Kong Limited	10	21	21	2.10

## ② 新八佰伴 New Yaohan

新八佰伴 New Yaohan は旧 日本八佰伴 (Yaohan) のマカオ支店であり、1992 年に開業し、全マカオで唯一のデパートとなった。1997 年 9 月 18 日、日本八佰伴の本社が会社更生法に基づいて破産した後、マカオにおける支店はマカオ観光娯楽株式会社が引き継ぐことになった。その後「新八佰伴 (New Yaohan)」に改名、マカオの蘇垂利斯博士大馬路に新しい「新八佰伴」ビルが建設され、2008 年 8 月 8 日に正式に始業した。



(写真左) 公式サイトの新八佰伴 New Yaohan の外観 (写真右) 新八佰伴 New Yaohan の入口

移転後の新八佰伴は、以前の 4 階建てから 9 階建てに増床、3 階建ての地下駐車場が併設され、他の階は新八佰伴のオフィスや倉庫となっている。1 階から 6 階は男女ファッションや化粧品が販売されており、野菜、肉類、卵、スナックなどの販売は 7 階。8 階はフードコート、9 階は電化製品の販売フロアである。



(写真) 新八佰伴で取り扱っている鶏卵は全て冷蔵棚に保存され、常温販売はなし。タイ産や中国産の鶏卵は販売されておらず、日本産鶏卵が合計 7 種類販売されている。マカオで最も多くの日本ブランドの鶏卵を取り扱っている店舗である

表3-13 新八佰伴 New Yaohan の鶏卵販売価額例（2025年5月27日時点）

鶏卵ブランド	産地	ディストリビューター	1パック 数量	表示価格 (バツカ)	販売価額 (バツカ)	平均価格/pc (バツカ)
和 白の輝き	日本	Shan Yat Food Co., Ltd	10	32	23.8	2.38
和の卵	日本	King Glory Inv Dev Ltd	10	39	39	3.90
安心 みなとう	日本	King Glory Inv Dev Ltd	10	40	40	4.00
蘭王	日本	ZEN-NOH International Hong Kong Limited	10	70	58	5.8

#### （4）伝統市場における販売実態

マカオのウェットマーケットは、大きく2つの形態に分類される。1つは、マカオ市政署によって建設・管理されている建物内型の伝統的市場（室内）である。もう1つは、建物の中の通路や道路沿いに立地する店舗が、路上にはみ出して商品を陳列することで形成された市場（室外）である。

市政署が管理するマカオの街市は全部で8か所あり、以下の通り：

1. 紅街市（ホンマーケット）
2. 台山街市（タイサンマーケット）
3. 祐漢街市（ユーハンマーケット）
4. 營地街市（インチーマーケット）
5. 雀仔園街市（チュックチャイユエンマーケット）
6. 下環街市（ハワンマーケット）
7. 沙梨頭街市（サーレイトウマーケット）
8. 氹仔市政街市（タイパシゼンマーケット）

一方、室外での露天街市は元々道路両側の店舗だが、店主が商品を路上に伸び並べて販売するようになったことで、自然に形成された伝統的な市場形態である。

街市で販売されている鶏卵には以下の4つの特徴がある：

1. 圧倒的に中国産が多い
2. 価格が安い
3. 常温保存されている
4. 1個単位で購入できる

街市の店主は中高年層が多く、卸売市場から仕入れた商品を店舗に運んで販売する。室内の街市には新鮮な魚介類を扱う店もあり、湿度は高いが空調が効いているため温度は一定に保たれている。室外の路地裏市場は元々道路の両側にあるためスペースが狭く人混みがあり、外気温に左右されることがある。

① 市政署に建設・管理される街市



(写真左) 最も歴史が長い紅街市（レッドマーケット）の外観で、正式名称は「罇些喇提督市政街市」である。市場の外壁が赤レンガ色であることから、通称「紅街市」と呼ばれている

(写真右) 紅街市の外の道路沿いでは、道路脇の建物の1階店舗がパラソルを広げて商品を並べ、露天市場が展開されている



(写真) 市場内の個人経営の食料品店では、鶏卵を販売しており、皮蛋（ピータン）、塩漬け卵、ザーサイなどの卵関連製品と一緒に並べられている



(写真左) 紅街市には毎日販売される食材の平均価格を表示する画面が設置されている。価格は市政署が管理する「街市通」ウェブサイト(写真右)で確認できるが、鶏卵の販売価格は記録されていない

## ② 室外の街市



(写真) 店では卸売用の紙箱から鶏卵を取り出し、一つずつ目の前のプラスチックカゴに入れている



(写真左) カゴは鮮やかな色のプラスチック製で、内側には段ボールが敷かれている。横には銀色のステンレス製のトレーが置かれ、その上にも段ボールが敷かれている

(写真右) 一部の店では独自に再包装を行い、鶏卵を透明なビニール袋に入れ、金色の針金で袋を縛って販売している

## 第4章 消費動向と食習慣

### 1. 消費動向（所得と消費に関する統計）

マカオ政府統計局が5年ごとに実施する住民収入・支出調査によると、2023～2024年度においてマカオ全体の世帯数は204,177世帯に達した。家族人数では2～3人の世帯が最多で全体の52.9%を占め、次いで4人世帯（19.5%）、1人世帯（16.9%）となっている。

表4-1 2023～2024年マカオにおける世帯数

家族人数	2017～2018年		2023～2024年	
	世帯	全体構成比	世帯	全体構成比
総数	191273	100.0	204177	100.0
1人	27464	14.4	34589	16.9
2人	47095	24.6	58989	28.9
3人	48560	25.4	49071	24.0
4人	40645	21.2	39721	19.5
6人	18791	9.8	14554	7.1
7人以上	8718	4.6	7253	3.6
平均人数	3.04人		2.83人	

出典：マカオ政府統計局「2023/2024年住戸収支調査」

世帯の月平均収入（労働収入、資産収入、金銭および非金銭的移転収入を含む）は58,835パタカであり、平均可処分所得は54,143パタカ。世帯1人当たりの月平均収入（世帯の月平均収入を平均世帯人数で割ったもの）は20,815パタカとなっている。労働収入は世帯収入の主要な源であり、全体収入の67.0%を占めている。次いで金銭的移転収入が19.4%を占めている。

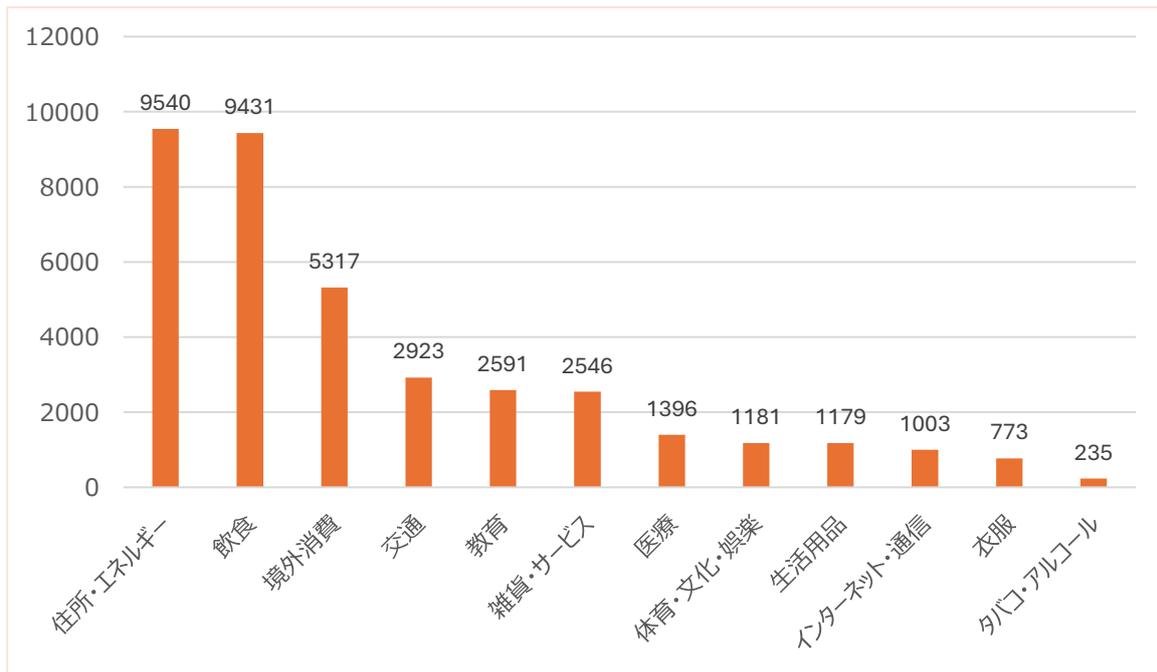
表4-2 2023～2024年マカオにおける世帯平均収入

	2017～2018（パタカ）	2023～2024（パタカ）
世帯月平均収入	58,610	58,835
世帯月平均可処分所得	55,249	54,143
1人当たりの月平均収入	19,306	20,815

出典：マカオ政府統計局「2023/2024年住戸収支調査」

2023～2024 年度における世帯の月平均消費支出は 38,115 パタカで、1 人当たりの月平均消費支出は 13,484 パタカ。世帯の消費の主な内訳としては、住居費および燃料費（9,540 パタカ）が総支出の 25%を占め、次いで「飲食（ノンアルコール）」（9,431 パタカ）が 24.7%を占めている。また飲食に関する支出では、世帯が月に外食（店内飲食）およびテイクアウトに費やす金額は合計で 5,789 パタカとなっている。

表 4 - 3 2023～2024 年世帯月平均消費支出（パタカ）



出典：マカオ政府統計局「2023～2024 年住戸収支調査」

## 第 5 章 輸入規制と手続き

### 1. 輸入規制・手続き・通関に関して

日本産鶏卵の輸出手続きについては、日本の農林水産省 動物検疫所の公式ウェブページ「家禽の畜産物の輸出」に掲載されている「食用殻付き卵」に関する記載に基づいて実施される。ラベル表示を含む輸入国側の追加規制については、輸入者を通じて事前に確認する必要がある。関連資料は以下のウェブページにて確認できる。

■ 日本農林水産省の動物検疫所、家禽の畜産物の輸出ページ

(<https://www.maff.go.jp/aqs/hou/exkakin3.html>)

マカオへの日本産殻付き鶏卵の輸入にあたっては、マカオ政府の「第 7/2003 号法律」および「第 209/2021 号行政長官指示 附属書三『衛生検疫／植物検疫の対象となる貨物リスト』」に基づき、以下の条件を満たす必要がある。

1. マカオ市政署 (Municipal Affairs Bureau, IAM) への申告を行い、衛生検疫を受けること
2. 検疫書類として、日本国農林水産省が発行する「輸出検疫証明書」を提出すること。  
同証明書には、以下の事項が明記されている必要がある。
  - 製品が動物伝染病非発生地域に由来する健康な動物から生産されたものであること。
  - 衛生管理下で生産され、人の食用に適するものであること。
3. 製品が原産国・地域の輸出要件を満たし、マカオの関連法規（現行法及び公告を含む）に適合すること。
4. 輸入業者が、日本側で発行された賞味期限証明書および原産地証明書を追加で提出すること。

なお、第 4 点に関連して、マカオ政府は ALPS 処理水の海洋放出に伴い、2023 年 8 月 24 日以降、日本の 10 都県からの生鮮食品などの輸入を停止している。詳細は以下の通り。

【第 134/2023 号行政長官批示】

2023 年 8 月 24 日より、福島県、千葉県、栃木県、茨城県、群馬県、宮城県、新潟県、長野県、埼玉県、東京都からの生鮮食品、動物由来食品、海塩、海藻の輸入が禁止となっている。（鶏卵、野菜、果物、乳製品、水産物、水産加工品、肉類およびその加工品などが含まれる）

以下は、マカオ側における輸入申請手続きの概要である。日本側の関連手続き（輸出検疫証明書の取得等）については、農林水産省の公式告示に基づき対応する必要がある。

#### 1. 輸入ライセンス／申告書の手続き及び検疫予約（市政署より）

申請期限：貨物の輸入前、少なくとも 1 営業日前までに市政署で手続きを行う必要がある。

必要書類：

- (1) 輸入ライセンス及びそのコピー
- (2) 輸入申告書及びそのコピー
- (3) 輸出国家/地域の権限機関が発行する有効な衛生証明書原本（日本の農林水産省を指す）

#### 2. サービス窓口及び時間

(1) 窓口での申請（営業時間：すべて月曜～金曜 午前 9 時～午後 6 時）

申請場所：総合サービスセンター：マカオ南湾大馬路 762-804 号中華広場 2 階

北区市民サービスセンター：マカオ黒沙環新街 52 号政府総合サービスビル

離島区市民サービスセンター：タイパ島哥英布拉街 225 号 3 階離島政府総合サービスセンター

#### (2) オンライン申請

経済・科技發展局が提供する「オンライン電子通関システム」を通じて、輸入食品の申告および検疫予約が可能である。紙の申告書類を購入する必要はない。詳細については、マカオ経済・科技發展局に確認すること。（オンライン電子通関システム Customs Declaration Services System :

<https://eservice.edi.gov.mo/ecustoms/>）

#### 3. 申請費用：

- (1) 申請手数料：免除
- (2) 検疫を実施する場合、申請者は検疫費用を支払う必要がある
- (3) 検疫費用は現行の市政署の料金表に準ずる（料金表：[www.iam.gov.mo/c/pricetable/list](http://www.iam.gov.mo/c/pricetable/list)）

関係者ヒアリングにより、現状では日本からマカオへ鶏卵の輸入が実施されていない（香港ディストリビューターを経由している）という情報があった。このため、日本からマカオへ直接鶏卵を輸入するための方法についてマカオ市政署食品検査検疫所へ問い合わせを実施した。

2025年12月3日、市政署より受領した回答は以下の通り。

貴殿よりお問合せのありました、海外産鶏卵のマカオへの輸入に関する件につき、下記のとおりご回答申し上げます。

本特別行政区の法律である「対外貿易法」、「対外貿易活動規章」および「衛生検疫及び植物検疫」の規定に基づき、鶏卵を輸入する際には、マカオ税関への申告を行い、併せて当署による検査および検疫を受ける必要があります。また、原産国の権限ある当局が発行した衛生証明書類を提出しなければなりません。輸入貨物は本来の包装を保持し、そのラベル表示の情報は衛生証明書類の内容と一致している必要があります。検疫が完了した後に初めて、貨物は受け渡され、販売が可能になります。

なお、中国本土からマカオ向けに供給される鶏卵については、長年にわたり中国本土の税関が、卵殻への印字コードやレーザーコードなどによるトレーサビリティ管理を実施しており、これらの措置は一貫して有効であり、本特別行政区の住民からも認められております。一方、外国産鶏卵の輸入について、当署は卵殻印字等のトレーサビリティ管理措置を義務化してはおりませんが、関連する輸入業者に対しては、「食品安全法」および食品安全基準を遵守して生産・営業を行い、有効な食品安全に関する内部管理体制を構築するとともに、入出庫記録または関連書類を適切に保存し、食品安全上のリスクが存在し、または存在する可能性がある場合には当署へ通報を行い、必要な時期に食品安全上のリスクのある食品を速やかに回収することを求めています。マカオ市政署

## 2. 鳥インフルエンザワクチン接種について

現時点では、鳥インフルエンザワクチンの接種に関する具体的な情報が公表されていないことから、殻付き鶏卵の生産に用いられる鶏に対して、接種が認められているワクチンおよび禁止されているワクチンに関する規制内容について、マカオ市政署食品検査検疫所に照会を行った。

2025年7月1日、市政署より受領した回答は以下の通り。

回答 11349/2025:【海外鶏卵輸入に関する相談】日本産鶏卵のマカオ輸入に関する規制相談

マカオ特別行政区「第7/2003号法律」および「第209/2021号行政長官指示附属書三『衛生検疫/植物検疫の対象となる貨物リスト』」に基づき、日本産鶏卵を輸入する場合、所管当局への申告および当署による衛生検疫を受ける必要があります。検疫書類として、日本国農林水産省発行の「輸出検疫証明書」を提出する必要があります。これには製品が動物伝染病非発生地域の健康な動物に由来し、衛生管理条件下で生産され、人間の食用に適していることが明記されていなければなりません。また、当該製品は原産国/地域の関連輸出要件を満たすと同時に、マカオのその他の現行関連法律法規および公告の要求事項に適合する必要があります。さらに、輸入業者は日本側が提供する鶏卵の賞味期限証明書および原産地証明書も提出する必要があります。

現在、日本産食品のマカオ輸入に関する管理措置は依然として有効であり、福島県、千葉県、栃木県、茨城県、群馬県、宮城県、新潟県、長野県、埼玉県および東京都の計10都県に由来する生鮮食品(鶏卵を含む)、動物由来食品、海塩および海藻などの輸入が禁止されています。

詳細は <https://www.foodsafety.gov.mo/c/measures/detail/07c232b5-29a5-46b8-803f-4935f5f55d20> をご参照ください。

衛生証明書類についてご不明な点がございましたら、輸入前にマカオの輸入業者を通じて、当該製品の情報、製品ラベル、原産地域の権限部門が発行した衛生証明書類などを当署に提供いただき、ご確認いただくことをお勧めします。お問い合わせは(853) 2852 6943 までお電話ください。

輸入ライセンス/申告書の手続きおよび検疫予約の詳細については、

当署のウェブページ: <https://www.iam.gov.mo/c/apms-food/adminDefault/22> をご覧ください。

マカオ市政署

以上を踏まえると、鶏卵生産用の鶏に対するワクチン接種そのものについて、マカオ市政署に明確な条文規定は存在しない。現行制度における主な要件は、市政署への申告および衛生検疫の実施であり、検疫書類として日本国農林水産省発行の「輸出検疫証明書」、鶏卵の賞味期限証明書および原産地証明書の提出が求められる。また、輸入される鶏卵は、マカオの現行関連法令および公告の要件を満たす必要がある。

## 第6章 業界関係者からのヒアリング

マカオの養鶏業界の現状や鶏卵の流通、市場動向を把握するため、8名の業界関係者にヒアリングを実施した。なお、インタビュー対象者の意見や見解は事実と異なる可能性があるが、そのまま記録する（インタビューは2025年10月に実施した）

### 1. 鶏卵卸売業者 A

#### 【会社概要】

マカオに拠点を置き、主に中国産鶏卵を扱いながら日本産鶏卵なども輸入・販売する卸売業者。主要な顧客はホテル、スーパーマーケット、レストラン、一般客など多岐にわたる。特にホテル向けビジネスに注力している。

#### 【マカオ市場環境】

##### 卵の輸入動向：

以前は中国産が6割、アメリカ産やマレーシア産が3割、日本産が1割程度だったが、貿易戦争や各国の内需拡大の影響でアメリカ産・マレーシア産の輸入が停止。現在、市場の85～90%は中国産鶏卵が占めている。残りのシェアは日本産、韓国産、タイ産などで割っている。韓国産のシェアは非常に小さく、市場の約2%程度。

##### ケージフリー（平飼い）卵の需要：

香港の非営利団体「Lever<sup>1</sup>」の働きかけにより、マカオのホテル業界でケージフリー卵への移行が急速に進んでいる。六大カジノ企業<sup>2</sup>は、遅くとも2027年までに完全にケージフリー卵へ切り替えることをコミットしている。

---

<sup>1</sup> Lever 香港のLever（Lever 禎桿）は、企業や機関と協力して「健康的な食生活」と「農場動物の福祉向上」を推進する非営利系の団体である。植物性食品や培養肉を普及させるために、企業のメニューや商品ラインアップにより良い選択肢を増やし、消費者の行動変容を後押しすることで社会的価値を生み出すことを使命としている。公式サイト：<https://lever.hk/>

<sup>2</sup> 六大カジノ企業 マカオ政府からカジノ営業ライセンスを正式に与えられているカジノ企業。ギャラクシー・エンターテインメント・グループ（銀河娛樂集團）、サンズ・チャイナ（金沙中国）、メルコ・リゾーツ&エンターテインメント（新濠博亞 / 新濠国際）、ウェイン・マカオ（永利澳門）、MGMチャイナ（美高梅中国）、SJMホールディングス（澳博控股 / Sociedade de Jogos de Macau）

ホテルからの需要に直結するため、サプライヤーにとってケージフリー卵への以降は非常に重要な動向となっている。現在は、中国の雲南省や海南省、重慶市などからケージフリー卵を調達している。湖北省は伝統的な高品質な卵の産地だが、ケージフリー卵の農場は少ない。

#### **日本産鶏卵のイメージと需要：**

日本産鶏卵は「清潔」「高品質」「生食可能」のブランドイメージが強く嗜好品として認識されている。特に「蘭王」はその卵黄の色の濃さから人気が高く、すき焼きを提供する日本食レストランや、エッグタルトの高級店などでブランドを前面に出して使用されている。価格よりも品質やブランドイメージを重視する若い世代や、特定の料理での使用を目的とするレストランからの需要がある。

#### **【取扱商品と価格】**

##### **取扱比率：**

取扱量の約 9 割は中国産鶏卵。日本産鶏卵は少量で主にスーパーやウエットマーケット（街客）向け。

##### **価格**

- ・ **日本産鶏卵:**マカオ到着時のコストは 1 個あたり 2 パタカ強。香港での仕入れ値（2～3 HKD）に、香港からマカオへの輸送費（燃料費、船務費、荷降ろし費）が上乗せされるため、香港よりも高くなる。  
スーパーでの日本産鶏卵の小売価格は、10 個入りで 20 数～30 パタカ程度である。
- ・ **中国産（湖北）鶏卵:**日本産鶏卵に比べて約 3 割安く、価格競争力がある。

##### **凍結液卵:**

ホテルとベーカリー向けに、1 パック 5kg の凍結液卵（全卵、卵白、卵黄）を取り扱っている。主に中国産を使用しており、日本産の凍結液卵はコストが非常に高くなる（マイナス 18 度での輸送・保管が必要）ため、コストパフォーマンスが低く、取り扱いが難しい。

## 【鶏卵の流通と規制】

### 輸入プロセス

- ・ **衛生証明書の原本**：日本産を除くすべての国からの鶏卵輸入には、衛生証明書の原本が必須。香港の代理店経由で仕入れる場合も代理店から原本を入手する必要があり、これが日本産鶏卵の仕入れでの大きな障壁となっている（多くの香港サプライヤーは原本提供に非協力的であることが多い）。
- ・ **EDI システム**：通関手続きは「EDI」という電子システムで行われ、以前の紙ベースより迅速化された。衛生検疫の担当官が早朝に豚肉や牛肉の検査を終えた後、同時に卵の検査と輸入承認を行うというマカオ特有のプロセスがある。

### 輸送（コールドチェーン）

- ・ **日本→香港→マカオ**：日本から香港、そしてマカオへの輸送過程で、一貫したコールドチェーンは保証されていない。特に香港からマカオへの船便は、少量（2～4パレット程度）の場合、コストの問題から常温で輸送されることがほとんどである。
- ・ **中国→マカオ**：湖北省から珠海経由でトラック輸送される中国産鶏卵も基本的には常温で輸送される。

### 保管：

A社では、マカオ到着後、ホテル向けや日本産などの高品質な卵はすぐに冷蔵庫で保管する。しかし、ウェットマーケットや小売店は店舗スペースの狭さや結露によるカビ発生を懸念し、卵を常温で保管することが多い。

### 表示義務とトレーサビリティ

- ・ **マカオ**：輸入される中国産鶏卵には、「農場名」「農場コード」「生産日付」の3点を卵に印字することが義務付けられている。これによりトレーサビリティが確保されている。
- ・ **香港**：香港では中国産鶏卵への印字義務がない。そのため、香港では価格が安い時期に大量に仕入れて冷蔵保存した「冷庫蛋」を、需要期に高値で販売するビジネスが可能だが、印字義務のあるマカオでは不可能である。

### **新規ブランドの輸入規制（問證）：**

新しいブランドの鶏卵をマカオに輸入する際は、事前に市政署に「問證」という許可申請を行う必要がある。申請には、商品のパッケージ（正面、側面）、ラベル、箱のパッケージ写真、卵のパッケージを開けた状態（サイズなど）の写真、農場の証明書、産地の情報など、非常に詳細な資料の提出が求められる。

鶏へのワクチン接種に関する規制は、多くのサプライヤーは把握しておらず、市政署および原産国の農場の方針に依存する。マカオの輸入基準は香港よりも厳格であると認識している。

### **【マカオでの日本産鶏卵取扱量拡大の可能性】**

#### **課題：**

最大の障壁は、香港のサプライヤーから衛生証明書の原本を入手することの難しさ。多くのサプライヤーが、マカオ向けの少量取引のために原本を提供することを嫌がる。香港からマカオへの輸送コストが上乘せられるため、価格競争力が低い。日本からマカオへの輸送期間により、「生食可能」期間が過ぎてしまい、最大のセールスポイントが失われる。

#### **機会：**

ホテル業界ではケージフリー卵への強い需要がある。もし「日本産」かつ「ケージフリー」の卵を安定的に供給できれば、ホテルからの採用の可能性は高い。A社はホテル向けビジネスを重視しており、入札に成功できる見込みがあれば、新しい日本産ブランドの導入に非常に興味を持っている。

スーパーマーケットも、新しいブランドや付加価値のある商品（例：CP値が高い、特定の顧客層に響くなど）であれば、導入を検討する可能性がある。

#### **調達戦略：**

特定のブランド（例：「蘭王」）を扱う代理店を直接探すアプローチを取っている。新しいブランドの紹介や、香港のサプライヤーとの連携にはオープンな姿勢であり、常に新しい調達先を探している。

## 2. ポルトガル料理レストラン B

### 【会社概要】

マカオに拠点を置き、複数の店舗を展開するポルトガル料理レストランのシェフ。伝統的なポルトガル料理を提供しており、特にエッグタルト（パステル・デ・ナタ）が看板メニューになっている。

### 【マカオ市場環境】

#### 生食への懸念:

マカオの消費者は、過去の食中毒事例（サルモネラ菌など）の影響で、生卵や半熟卵を食べることへの警戒心が非常に強い。料理が半熟だと完全に火を通すよう作り直しを求める客もいる。

#### 供給の課題:

マカオは鶏卵を輸入に頼っており、レストランが受け取る卵は賞味期限が非常に短い（1週間程度）ことが多い。特にカジノホテルが厳しい基準で受け取りを拒否した商品が、一般のレストランに回ってくるという流通構造が存在する。

#### 卵のパスチャライゼーション処理:

マカオの客は鶏卵の鮮度を非常に重視する。特定の料理では生卵を用いるため、卵は「超新鮮」である必要があり、保存期間は2日を超えないことが求められる。しかし、鶏卵はマカオに輸送された時点で無菌性を保証しにくくなっていると判断し、特定料理で生卵を使用する場合には自店にて卵を低温加熱し、殺菌処理を行っている。

#### 動物福祉への関心:

シェフ個人としてはケージフリー卵などに関心があり、自宅用には日本産鶏卵を購入している。しかし、レストランの仕入れにおいては、マカオでの選択肢が非常に限られていることから、アニマルウェルフェア製品を優先することは現実的に難しい。

## 【取扱商品と価格】

### 使用鶏卵:

現在は主に中国産の鶏卵を使用。以前は日本産やアメリカ産も使用していたが、日本産は供給が不安定で高価だったため、使用を中止した。

**使用量:** 1 店舗あたり週に約 300 個。パストリーショップではさらに多く使用する。

**価格:** 中国産と米国産の価格差はあまりなく、1 個あたり 1.4~1.9 パタカ程度。価格は比較的安定している。

### 保管方法:

鶏卵は常温で納品される。調理用は受け取り後に冷蔵庫で保管するが、パストリー用は品質を保つため、常温で保管している。

## 【鶏卵の使用状況と選定基準】

### 鮮度:

最も重要な要素。賞味期限が最低でも 2 週間ないと受け入れられない。

### 卵黄の色:

料理によって求める色が異なる。特にポルトガル伝統のエッグタルト「ナタ」では、クリーム感を重視し、卵の風味が強すぎないよう、あえて黄色味が薄い（白っぽい）卵黄を仕入れ先に指定して使用している。

### 味:

卵が料理の主役になることが少ないため、味の濃厚さよりも、他の食材とのバランスを重視。マカオで一般的なエッグタルトが卵の風味を強調するのに対し、同店の「ナタ」は食感やクリーミーさを優先するため、卵の味は前面に出さない。

### 品質（物理的特性）:

日本産鶏卵は、卵黄膜が強くて破れにくく、卵黄と卵白のバランスが良い点を高く評価されている。殻の硬さや状態から、鶏の飼育環境もある程度推測できると考えている。

## 【マカオでの日本産鶏卵取扱量拡大の可能性】

### 課題:

供給の不安定さと価格の高さが、レストランでの使用を妨げる主な要因。同店のレシピでは、日本産鶏卵の最大の強みである「生食での安全性」や「濃厚な味」を活かす場面が少ない。

### 機会と提案

- ・ **低温殺菌卵（殻付き）の提供:** すでに低温殺菌処理のされた日本産鶏卵が出回ることがあれば、マカオ市場の「生食への不安」を直接解消できるため、非常に強いセールスポイントになる。安全性が保証されていれば、レストランは安心して多様なメニューを提供できる。
- ・ **凍結液卵、特に卵黄・卵白が分離された液卵の提供:** エッグタルト製造で大量の卵白が廃棄されており、卵黄のみを仕入れることができれば、コスト削減とフードロス削減に繋がり、非常に魅力的。安定供給と適正価格が前提であれば、導入を強く検討する。利便性のために多少高くても支払う価値があると述べている。
- ・ **品質の訴求:** シェフ個人は日本産鶏卵の品質の高さを理解・評価している。もしサプライヤーが供給の安定性を保証し、価格が手頃であれば、レストランでの使用も選択肢になり得ると考えている。

## 3. 大手食品卸売業者 C

### 【会社概要】

マカオに拠点を置く大手食品卸売業者。中国産、日本産、パキスタン産など多様な国の鶏卵を取り扱い、スーパー、レストラン、ホテル、リゾート施設など幅広い顧客層を持つ。香港の代理店と連携し、十数年にわたり日本産鶏卵を輸入・販売している。自社倉庫で再包装や二次消毒なども行う。

### 【マカオ・香港市場環境】

#### 市場構造と流通:

マカオ市場の鶏卵の約 90%は中国産が占める。次いで日本産が約 10%のシェアを持つ。

外国産（日本、欧米）の鶏卵は、香港を経由してマカオに輸入されるのが一般的。香港とマカオを合わせてコンテナ輸送することで物流コストを最適化している。中国では近年、鶏卵の輸出基地が 200 から 2 万へと急増し、国内で熾烈な価格競争（悪性競争）が起きている。その結果、現在の中国産鶏卵の価格は 30 年前の水準まで下落した。

#### **日本産鶏卵のブランドイメージ:**

香港・マカオ市場において、日本産鶏卵は「品質が高い」「信頼できる」「安全」という強いブランドイメージが確立されている。これは、日本の生産管理（ISO、HACCP 等）や衛生基準の高さ、そして日系百貨店などを通じた長年のプロモーションの成果である。

価格が中国産より高くても、その価値が消費者に理解されており、「少し高くても安心して食べられる」という理由で、特に所得に余裕のある層や日本文化に親しみのある層に選ばれる傾向がある。

#### **生食に対する考え方:**

マカオの消費者は「生食 = 高級・高品質」というイメージを持つ一方で、安全性への要求が非常に高い。しかし、その要求は時に理不尽（例：安価な卵にも生食を求める）になることもある。マカオ市政署の公式指針は「鶏卵は生で食べてはいけない」であり、卸売業者としてもこの指針を顧客に伝えている。日本からの生食可能な鶏卵は、空輸が必須で賞味期限が非常に短くなるため、輸送中の温度管理（コールドチェーンの維持）が極めて難しく、取り扱いリスクが非常に高い。

#### **【取扱商品と価格】**

##### **取扱品目:**

中国産、日本産（食品・製品総合代理店 D 経由）、パキスタン産など。顧客に多様な価格帯（1～3 パタカ/個）と産地の選択肢を提供することを戦略としている。

##### **価格変動:**

最近とある日本産ブランドが 10～20%という大幅な値上げを行い、ホテルなど長期契約を結んでいる顧客への価格転嫁が困難になるなど、ビジネスに影響が出ている。

## 課題

- ・ **供給の安定性:** 鳥インフルエンザの発生は最大の経営リスク。特定のブランドや産地に依存すると、発生時に欠品となり、顧客を失う可能性がある。そのため、複数のブランドを扱うことでリスクを分散している。
- ・ **包装:** 日本産鶏卵のプラスチック製パッケージ（生分解性プラスチック）は、輸送中に弱く、顧客から「持つのが怖い」との声がある。紙製の頑丈なパッケージの方が好ましい。

## 【マカオでの日本産鶏卵取扱量拡大の可能性】

### 将来性:

日本産鶏卵は品質とブランドイメージで確固たる地位を築いており、今後も安定した需要が見込まれる。日本の果物と同様に、中国産とは異なる「高級品」としての市場が確立されている。

### 成功の鍵

- ・ **品質の維持:** 継続的に高品質な製品を供給し続けることが最も重要。
- ・ **供給の安定:** 鳥インフルエンザなどによる欠品を起こさない体制づくり。
- ・ **理念の共有:** 生産者・加工業者と販売業者が理念を共有し、問題発生時に迅速に対応・改善する協力関係が不可欠。
- ・ **奇抜さより本質:** 卵本来の品質を追求し、過度な付加価値を追い求めない堅実な姿勢が信頼に繋がる。

### ワクチン接種について:

個人的には、中国本土ではワクチン接種が一般的であるため、鳥インフルエンザ対策としてのワクチン接種に抵抗はない。ただし、欧米市場では薬剤耐性への懸念がある。マカオや香港の規制当局がどのワクチンを許可し、どのような基準（休薬期間など）を設けるかが不明確なため、公式なガイドラインが示されない限り、導入にはリスクが伴う。まずは政府間で「ホワイトリスト（使用可能な薬剤リスト）」を作成し、基準を明確化することが望ましい。

## 4. 食品・製品総合代理店 D（香港拠点）

### 【会社概要】

香港に拠点を置く日本の食品・製品の総合代理店。鶏卵のほか、米、海産物、肉類、果物、さらには調理器具や陶器まで幅広く取り扱う。マカオの卸売業者「大手食品卸売業者 C」とは 10 年以上の協力関係にあり、日本産鶏卵を独占的に供給している。

### 【マカオ市場環境】

販売チャネル：マカオでの販売は、基本的に卸売業者「大手食品卸売業者 C」に一任している。ホテルなどから直接の引き合いもあるが、小口の配達や価格競争を避けるため、大手食品卸売業者 C とのパートナーシップを重視している。

### 顧客（ホテル）からの要求（二次消毒）：

特定のホテルは、納品前に鶏卵の二次消毒を要求する。これは 食品卸売業者 C 側で対応している。

プラスチックトレーでの納品：衛生管理上、段ボール箱ではなくプラスチック製のトレーでの納品が求められる。



（写真左）二次消毒を実施している消毒槽（2025 年 9 月 12 日）

（写真右）店員が二次包装を行っている様子。環境保護に配慮し、鶏卵を 1 個ずつリサイクル可能なプラスチック容器に入れて包装している（2025 年 9 月 12 日）

### 品質トラブルへの対応：

輸送中に卵が破損した場合、食品卸売業者 C の加工場で良品を選別し、再計算して対応するなど、緊密に連携して問題を解決している。食品卸売業者 C の協力的な姿勢を高く評価している。

## 【鶏卵の流通と規制】

### 日本から香港へ:

毎週、日本の農場（博多）から香港へ冷蔵コンテナ（0～4℃）で鶏卵を船便輸送。注文から香港到着までのリードタイムは約 2 週間。（月曜に大手食品卸売業者 C から受注 → 火・水曜に日本へ発注 → 翌週水曜に日本で積込 → 土曜に博多港出航 → 約 1 週間で香港到着）

### 香港からマカオへ:

香港到着後、自社倉庫で開梱し、マカオ（大手食品卸売業者 C）へ輸送する。マカオへの輸送は、コストが高い冷蔵コンテナではなく、夜間のドライコンテナ船便を利用することが多い。夏場は温度上昇による品質劣化のリスクがある。香港からマカオへの輸送には、開梱作業、船便輸送（一晩かかる）、マカオ側での荷揚げ・通関手続きを含め、さらに数日を要する。

#### ・ 課題①リードタイムと賞味期限：

日本での生産・梱包からマカオの顧客に届くまで、合計で約 3 週間かかる。一部のホテルからは「賞味期限 45 日以上」という厳しい要求があるが、この長いリードタイムで対応不可能。

#### ・ 課題②日本からマカオへの直送の障壁：

現状、鶏卵は香港を経由しているが、週 200～300 箱程度の物量があれば、20 フィートコンテナをチャーターして日本からマカオへ直送する方が、時間短縮・品質向上・コスト削減の面でメリットが大きい。しかし、直送には日本政府発行の「マカオ向け衛生証明書」が必要。現在、日本とマカオの政府間で鶏卵輸出に関する二国間協定や公式な対話がないため、日本側が証明書を発行してくれない。マカオ政府に日本との交渉を働きかけたが、「日本側から先にアプローチがない」として進展していない。この政府間のコミュニケーション不足が、直送の最大の障壁となっている。

## 【マカオでの日本産鶏卵取扱量拡大の可能性】

### 政府間交渉の促進:

日本養鶏協会を通じて、日本政府からマカオ政府へ働きかけ、「マカオ向け衛生証明書」が発行されるようになれば、日本からの直送が可能になる。これが実現すれば、リードタイム短縮と品質向上により、マカオでの販売拡大に大きく貢献する\*。（\*筆者註：その後の調査で、現行制度でも直接輸入が可能であることは確認できているものの、実際にはその煩雑な手続きとコスト負担の兼ね合いで未だ一般的でないと言える。）

### 重要なパートナーシップ:

鶏卵は海産物や肉類に比べて主力商品ではないが、食品卸売業者 C との 10 年以上にわたる信頼関係は非常に重要。マカオで最初に日本産鶏卵のビジネスを始めたパートナーであり、今後も協力関係を継続していきたいと考えている。

## 5. 和食レストラン E

### 【店舗概要】

マカオで 8 年間営業している和食レストラン。日本人のオーナー夫妻が経営しており、和風の朝食やちらし寿司、パーティーボックス（テイクアウト）などを提供。特に温泉卵を使ったメニューが人気。

### 【マカオ市場環境】

#### 生食文化と安全性:

マカオの年配層には生食文化が根付いておらず、温泉卵（流心蛋）を出す「生だけ大丈夫か」と確認されることがある。一方、若い世代や香港からの顧客は抵抗なく受け入れる。飲食業者としては、たとえ日本産でも生食にはリスクがあると認識しているため、毎日使用分だけ温泉卵を作って作り置きはしないなど、衛生管理を徹底している。

### **サプライヤーと物流:**

サプライヤーは複数試したが、品質の安定性を重視して現在の業者に落ち着いた。鶏卵は香港経由で輸入されており、サプライヤーが店舗まで直接配送してくれる。しかし、夏場にバイクで配送されることもあり、その際の温度管理（結露など）には懸念を持っている。

### **ケージフリー卵への関心:**

環境配慮（eco-friendly）の観点から、ケージフリー卵の導入に非常に関心がある。特にマカオの主要な顧客である六大カジノ企業が、政府の方針を受けてサステナビリティを重視しており、Wynn（ウィン）などが既にケージフリー卵を導入している。この流れは今後、市場全体に広がると予測している。中国産のケージフリー卵のサンプルを試したが、サイズなどの問題で採用には至らなかった。もし日本産のケージフリー卵があれば、競争力が高まるため、導入を真剣に検討したい。カジノ企業という大口顧客を開拓する上で、ケージフリーは重要な要素になると考えている。

### **【鶏卵の使用状況と選定基準】**

使用鶏卵：現在は日本産の鶏卵を使用。開業当初は中国産を使用していたが、その後サプライヤーの変更に伴い、現在は安定供給を理由に特定の日本産鶏卵（10個入りパック）を使用している。

### **使用量と頻度:**

1日に約40個の鶏卵を使用。週に2回、大きな箱で仕入れている。

### **価格:**

開業当初の中国産は1個あたり1.5マカオ・パタカ程度だったが、現在は日本産で1個あたり2.3パタカ。8年間で価格は上昇したが、許容範囲内と認識。

### **選定理由**

- ・ **顧客からの信頼:** 和食店であるため、顧客から「日本の卵ですか？」と尋ねられることがあり、日本産であること自体が安心感に繋がっている。
- ・ **品質の安定性:** 以前のサプライヤーから現在のサプライヤーに変更したところ、品質がより安定した。納品時

点で賞味期限が1ヶ月残っている点も評価している。

- ・ **家庭での使用:** レストランでは顧客の期待に応えるため日本産を使用しているが、自宅で食べる際は、新鮮で卵の味が濃いという理由で、特定のブランド（家郷味濃）の中国産鶏卵を選んでいる。日本で食べる新鮮な卵と遜色ないと感じている。

## 【マカオでの日本産鶏卵取扱量拡大の可能性】

### プロモーション:

相談会やビジネスマッチングのようなイベントには関心があるが、人手不足のため、短時間であれば参加を検討する。日本養鶏協会の統一ロゴマークは、現在すべての日本産鶏卵に付いているわけではないため、このマークが「安心の証」であることを消費者に広く宣伝することは有効だと考える。

### 市場開拓:

マカオ市場で大きなシェアを狙うのであれば、個人経営の飲食店よりも、卵の使用量が桁違いに多い六大カジノ企業をターゲットにすべき。カジノ企業はサステナビリティやCSR（企業の社会的責任）を重視しているため、「ケージフリー」をセールスポイントにすることが極めて有効である。

### ワクチン接種卵に対する見解

- ・ **消費者としての懸念:** ワクチン接種の事実が公になると、消費者は「何か余計なものが加えられている」と感じ、不安を抱く可能性がある。特に近年のコロナ禍でのワクチンに関する様々な情報に触れ、健康への影響を心配する声は多い。もし「ワクチン接種済み」と「未接種」の選択肢があれば、「未接種」を選ぶだろうと回答。
- ・ **飲食業者としての視点:** 一方で、鳥インフルエンザの発生を防ぐためのワクチン接種は、むしろ卵の安全性を高める「良いこと」ではないか、という見方もある。中国産の鶏卵は既にワクチン接種が行われているが、その事実は公にされていないため、消費者の不安を特に招いてはいない。情報の開示の仕方が重要だと考えている。

## 6. ベーカリー F

### 【店舗概要】

マカオの地元で人気のベーカリー。ケーキ、クッキー、カヌレなど、様々な焼き菓子を製造・販売している。

### 【マカオ市場環境】

#### 生食文化と安全性への意識:

マカオでは、一般的に生卵を食べる習慣は薄い。特に中国本土からの観光客は生食への抵抗感が強い。過去にプリンなどでの食中毒事例があったため、飲食業界全体で生や半熟の卵の使用には慎重になっている。焼肉店など一部で生卵を提供する例はあるが、限定的である。

#### ワクチン接種卵に対する見解:

一般消費者は、鶏卵にワクチンが使用されているかどうかを意識することはほとんどない。「ホルモン剤不使用」などの表示があれば価格が高くても選ぶ層はいるが、ワクチン接種の有無が購買行動に大きく影響するとは考えにくい。

#### サプライヤー:

地元の卵業者から殻付き卵を仕入れている。マカオには多くの小規模な卵業者が存在する。

### 【鶏卵の使用状況と選定基準】

#### 使用鶏卵の種類

- ・ **殻付き卵:** 主に中国・湖北省産の新鮮な卵を使用。味が濃い点が評価されている。ケーキや焼き菓子など、高温で加熱する製品に用いる。
- ・ **凍結液卵:** ムースなど低温で調理する製品や、マカロンなど卵白を大量に使う製品には、衛生面のリスクを避けるため凍結液卵を使用。全卵タイプは使わず、凍結卵黄と凍結卵白をそれぞれ購入している。

#### 使用量

- ・ **殻付き卵:** 約 2 週間で半箱 (約 180 個) 程度。
- ・ **凍結液卵:** 1 ヶ月で冷凍卵白を 3~4kg 程度。

- ・ **液卵のブランドと品質:** 以前は米国産の冷凍卵液を使用していたが、価格が2倍以上に高騰したため、現在は中国産（デンマーク製法）とデンマーク産を主に使用。
- ・ **凍結卵黄:** デンマーク産を使用。中国産は解凍後の流動性が悪く、固すぎて使いにくかったため不採用。
- ・ **凍結卵白:** 中国産を使用中だが品質はあまり良くなく、製品が薄くなることもある。粘度が高いものが理想。

### 購買価格

- ・ **中国産:** 凍結卵白（平均）56パタカ/1kg、凍結卵黄（平均）71.5パタカ/1kg
- ・ **デンマーク産:** 凍結卵白（平均）92パタカ/1kg、凍結卵黄（平均）39.5パタカ/1kg
- ・ **日本産:** 凍結卵白（平均）65パタカ/1kg、凍結卵黄（平均）103パタカ/1kg

### 日本産鶏卵・液卵の導入状況

- ・ **殻付き卵:** 使用経験なし。
- ・ **凍結液卵:** 過去に香港の業者（PCG）を通じて北海道産の凍結液卵の輸入を試みたが、通関の問題（衛生証明書など）でマカオに納品できず、断念した経緯がある。もし輸入可能で、価格がデンマーク産の1.2倍程度であれば、品質の良さから導入を検討したい。

### 業務用鶏卵の選定基準

- ・ **品質と価格のバランス:** 小規模な店舗であるため、ケージフリーなどの付加価値よりも、製品の仕上がりを左右する品質（味の濃さ、液卵の流動性や粘度）とコストを最優先する。
- ・ **卵黄の色:** ケーキの色に影響するため、過度に赤みがかったオレンジ色ではなく、自然な黄色が望ましい。

### 個人（家庭用）鶏卵の選定基準

- ・ **安全性:** 自宅では半熟卵を食べることが多いため、食中毒のリスクを懸念し、殺菌処理がされている日本産の殻付き卵を購入している。中国産は衛生面に不安がある。
- ・ **価格:** 日本産でも1パック（10個入り）20～30パタカ程度であれば手頃。夢王のように70～80パタカになると高すぎると感じる。
- ・ **味・食感:** 正直なところ、味や食感において中国産と日本産で大きな違いは感じない。

## 【マカオでの日本産鶏卵取扱量拡大の可能性】

### 日本産凍結液卵の輸入実現:

品質の良い日本産凍結液卵の需要は高いものの、現状ではマカオに輸入できていない。衛生証明書の問題など、輸入障壁の解消を日本側から働きかけてほしい。

### イベントへの参加:

香港で開催されるビジネスマッチングや商談会に興味がある。参加を検討したい。

## 7. エッグワッフル店 G

### 【店舗概要】

マカオで8店舗を展開する人気のエッグワッフル（雞蛋仔）およびエッグタルト（葡撻）の専門店。オーナー夫妻が経営している。

### 【マカオ市場環境】

#### 生食文化:

オーナー自身の家庭では、鍋料理の際に日本産の卵を生でタレとして使うことがある。しかし、マカオの一般消費者、特に年配層は、食中毒（サルモネラ菌）への懸念から生卵を食べる習慣はほとんどない。

昔は鍋料理で生卵を使うこともあったが、現在は衛生意識の高まりから見られなくなった。過去にマカオの日本食レストランで、生卵を使った牛丼が原因とみられる食中毒事件が数回発生したことも、生食への警戒感を強める一因となっている。

#### 日本産鶏卵のイメージ:

マカオの消費者にとって、日本産鶏卵は「高級品」というイメージが定着している。

#### ケージフリー卵への関心:

ホテルなど大企業は CSR（企業の社会的責任）や環境配慮の観点からケージフリー卵に関心があるかもしれないが、小規模店ではコストが大幅に増えるため導入は現実的ではない。コスト増の価格転嫁は「お客様に怒られてしまう」と述べている。

### 【鶏卵の使用状況と選定基準】

**使用鶏卵:**主に中国・湖北省産の新鮮な赤玉子（紅心蛋）を使用。

#### 選定理由

- ・ **鮮度:** 中国本土からの輸送距離が短く、新鮮であること。
- ・ **価格:** 1 個あたり約 1 パタカと非常に安価であること。
- ・ **品質:** 米国産は「良くない」、日本産は「高すぎる」と感じており、コストと品質のバランスから中国産を選択。

#### 使用量:

8 店舗・2 日で 8 箱（1 箱 360 個入り）、つまり 1 日当たり 1,440 個という超大量の鶏卵を消費している。

#### 調理方法:

液卵は使用せず、すべて殻付きの新鮮な卵を、調理の都度、従業員が手で割って使用している。これにより、製品の鮮度を保っている。

**液卵不利用の理由:** 液卵の知識が乏しく、信頼できる供給元を知らないため。情報不足が主な要因。

### 【鶏卵の流通と規制】

**仕入れ先:** マカオの卸売業者「食品卸売業者 C」から仕入れている。

#### 納品形態:

卸売業者から店舗へはトラックで配送される。卵はもともと冷蔵保管されているが、配送時は常温のため、納品時に結露していることがある。

**保管:** 納品された卵は、2～3 日でほぼ使い切るため、長期保管はしない。

## 【マカオでの日本産鶏卵取扱量拡大の可能性】

### 液卵の情報提供:

液卵に関する知識や信頼できる供給元の情報が不足しているため、情報提供に期待している。香港で開催される凍結液卵のワークショップにも興味を示しており、時間が合えば参加を検討したいとのこと。

### ワクチン接種卵に対する見解

- ・ **認知度:** 中国産の鶏に鳥インフルエンザワクチンが接種されていることは、今回のインタビューで初めて知った。
- ・ **態度:** 「良くはないだろう」としつつも、「避けられないのであれば仕方がない」という中間的な立場。コロナ禍で自身もワクチンを接種せざるを得なかった経験と重ね合わせ、必要悪として捉えている。選択肢があるならば、ワクチン未接種の鶏卵を選びたいと考えている。

## 8. 大手日系関連企業 H (香港拠点)

### 【会社概要】

大手日系関連企業 H の国際部門における香港拠点。日本の農畜産物の輸出を担い、香港・マカオ市場においては鶏卵の主要サプライヤーの一つ。香港市場では約 80% のシェアを持つ。自社で香港からマカオへの直接輸送も手掛けるほか、現地のディストリビューターを介した販売も行っている。

### 【鶏卵の流通と規制】

**総輸出量:** 香港・マカオ向け日本産鶏卵の総量は、月間約 180~210 トン。

### マカオへの輸出量:

マカオ向けは約 4 トン/月 (約 400 ケース)。香港向けと比較すると非常に少ない。(全体の約 2%)

### 取扱ブランド:

- ・ **香港向け:** 約 15 ブランドを取り扱っている。
- ・ **マカオ向け:**

現在は「KAWAII TAMAGO」と「蘭王」の 2 種類がメイン。ブランドを絞っているのは、香港市場で既に

ブランド力が確立されており、マカオ市場でも同様のニーズがあると判断したため。

#### **主要顧客:**

スーパーマーケット（PARK nや Fusion、新八佰伴等）のほか、特に高級ブランド卵はホテルでの使用が多い。

#### **輸送方法**

- ・ **企業 H が直接手配:** 大手日系関連企業 H がマカオの物流会社を介し、店舗まで直接配送する。
- ・ **顧客（ディストリビューター）が手配:** 顧客が香港の港で貨物を引き取り、その後のマカオへの輸送を手配する。どちらの方法を選択するかは、顧客の希望や貿易条件によって決まる。コスト面では顧客自身が引き取る方が安価になる。

#### **衛生証明書（検疫証明書）:**

マカオへの輸出には、日本で発行された検疫証明書の原本が必須。一つのロット（例：700 ケース）を複数回に分けてマカオへ輸送する場合、初回の輸送には原本が必要だが、2 回目以降はコピーで対応可能。この「原本は 1 枚しかない」というルールが、複数のディストリビューターが絡む際のボトルネックになることがある。トラブルを避けるため、原本を自社で管理したいという意向が働き、融通が利きにくくなる。

#### **ラベリング:**

卵のパッケージに商品名、賞味期限、検疫証明書番号などを記載したラベルを貼る作業は、香港の倉庫で行っている。

#### **温度管理:**

日本から香港、そして香港からマカオへの輸送は、すべて 0~4℃に設定された冷蔵（リーファー）コンテナを使用し、コールドチェーンを徹底している。現地のディストリビューターの中には、香港-マカオ間の輸送に常温の船便を使う業者もいるが、同社としては品質維持のため冷蔵輸送を堅持している。この管理体制の違いが、価格や品質の差に繋がっている。

### **日本からマカオへの直送について:**

JETRO に確認したところ、制度上は日本からマカオへの鶏卵の直送は可能。しかし、実際にはマカオ側の受け入れ基準が曖昧であることや、市場規模が香港に比べて格段に小さいことから、多くのサプライヤーは一度香港に集約してからマカオへ転送する方が、物流・コスト効率が良いと判断している。

### **【マカオでの日本産鶏卵取扱量拡大の可能性】**

#### **ケージフリー卵:**

過去に顧客の要望で輸入実績はあるが、コストが非常に高いため、継続的な取り扱いは難しい。マカオのホテル業界で 2027 年までに 100%ケージフリー卵に移行する動きがあることは認識しているが、日本産はアメリカ産や中国・タイ産に比べてコスト競争力で劣るため、ホテル側がその価格を受け入れるかどうかは鍵となる。

#### **ワクチン接種卵:**

現状、マカオへの輸出においてワクチン接種の有無に関する特別な規制はない。衛生証明書が最重要である。もし日本でワクチン接種が義務化されても、味や価格に変化がなく、安全性が担保されるのであれば、販売上の問題はないと認識している。

#### **日本産鶏卵の味:**

日本の卵は味が濃い一方、鶏特有の臭みが少ない点が特徴。特にデザートなどを作る際に、この「臭みのなさ」が大きな利点となる。これは飼料の違いによるものだと考えている。

## 第7章 まとめ

### 1. マカオにおける鶏卵の需給動向

マカオでは過去の鳥インフルエンザ発生を契機として、家禽の飼育および生体家禽の流通が禁止されており、殻付き鶏卵を含む家禽卵の供給は全量を海外からの輸入に依存している。このため、鶏卵はマカオにおける重要な輸入食料品の一つであり、安定供給の確保が常に政策的課題となっている。

2024年時点におけるマカオの殻付き鶏卵輸入量は約2.4億個、輸入金額は約2億パタカに達し、2020年以降、数量・金額ともに増加傾向が続いている。供給国別では中国産が圧倒的多数を占め、過去5年間の輸入量シェアは約85%、輸入金額シェアは約83%に達している。一方、日本産鶏卵は輸入量シェアでは2%前後にとどまるものの、単価が高く、輸入金額ベースでは約5%を占めており、プレミアム商材としての位置付けが明確である。また、殻付き鶏卵以外にも、凍結液卵や凍結卵黄といった加工卵製品の輸入が行われているが、金額・数量ともに殻付き鶏卵が主流であり、家庭用・業務用の双方において殻付き鶏卵への依存度が高い。

マカオにおける鶏卵流通は、中国産鶏卵と外国産（日本産を含む）鶏卵で異なるルートを形成している。中国産鶏卵は、産地で洗浄・包装後、生産企業独自の物流網を通じてマカオへ輸送され、現地卸売業者を介して再度洗浄・選別・包装された上で、卸売市場および小売店へ供給される。一方、日本産をはじめとする外国産鶏卵は、主に香港の輸入ディストリビューターを経由し、主に海上輸送でマカオに搬入された後、現地卸売業者を通じてスーパーマーケットや飲食店へ流通する限定的なルートに依存している。

マカオの一般消費者向け鶏卵販売は、スーパーマーケットを中心とするモダン・トレードと、個人商店やウェットマーケットから成るトラディショナル・トレードに大別される。中国産鶏卵は価格競争力の高さから幅広い業態で流通しているのに対し、日本産鶏卵は主に大型スーパーマーケットや日系・中高級小売店で取り扱われ、ウェットマーケットなどの伝統小売ではほとんど見られない。消費面では、家庭内調理用途に加え、レストラン、ベーカリー、菓子店など外食・業務用途での需要が大きい点が特徴であり、観光業・カジノ産業に支えられた外食需要の回復が、鶏卵輸入量の増加を後押ししている。

マカオでは、日本産鶏卵を含む輸入鶏卵に対し、市政署への申告および衛生検疫が義務付けられている。加えて、ALPS 処理水海洋放出に伴う措置として、2023 年以降、日本の一部 10 都県からの生鮮食品（鶏卵を含む）の輸入は禁止されており、輸出地域の制約が需給構造に影響を与えている。

## 2. マカオにおける日本産鶏卵のポジション整理

日本産鶏卵はマカオ市場において、量で競争する商品ではなく、安全性・品質・トレーサビリティを重視した高付加価値ニッチ商品としてのポジションが明確である。価格や供給量、物流ルートの制約といった課題はあるものの、日系小売店や外食・製菓用途を中心に、品質を重視する需要層から一定の評価を得ている。今後は、中国産鶏卵と同一土俵で競争するのではなく、販売チャネルや用途、消費者層を明確に限定した戦略を採ることで、規制や供給制約の下においても持続的な市場展開が可能と考えられる。

また、カジノや大型ホテルへの導入等、大規模チャネルへの導入を目指す場合にはケージフリー卵等のアニマルウェルフェアに配慮した製品であることが必須になりつつある現状を踏まえ、「安心・安全な日本産」というブランド価値に加えてさらに新たな付加価値を感じられるような製品が求められていると言える。国際的な視点で製品を分析してブラッシュアップを続けることで、製品の価値と競争力を一層強化していく必要があるだろう。

以上

## 第 8 章 参考文献

### 第 1 章 マカオの基礎情報

- マカオ特別行政区政府 地図製作・地籍局 (DSCC)  
「地理的位置」  
参照先 : [https://www.dscg.gov.mo/zh-hant/geographical\\_location.html](https://www.dscg.gov.mo/zh-hant/geographical_location.html)
- マカオ特別行政区政府 地図製作・地籍局 (DSCC)  
「堂區別土地面積統計」  
参照先 : [https://www.dscg.gov.mo/zh-hant/geo\\_statistic\\_web2.html#scroll](https://www.dscg.gov.mo/zh-hant/geo_statistic_web2.html#scroll)
- マカオ特別行政区 統計暨普查局 (DSEC)  
参照先 : <https://www.dsec.gov.mo/zh-MO/>
- マカオ特別行政区 統計暨普查局 (DSEC)  
「2021 年人口普查」  
参照先 : <https://www.dsec.gov.mo/CensosWebDB/#!/information/0/1?lang=mo>
- 粵港澳大湾区  
「主要社会經濟指標 (2024 年)」  
参照先 : <https://www.bayarea.gov.hk/tc/about/macao.html>
- マカオ特別行政区政府 観光局  
「地理位置及び時間」  
参照先 : <https://www.macaotourism.gov.mo/zh-hant/travelessential/about-macao/location-and-time>
- マカオ特別行政区政府 観光局  
「歴史概要」  
参照先 : <https://www.macaotourism.gov.mo/zh-hant/travelessential/about-macao/brief-history>
- マカオの記憶 (Macau Memory)  
「歴史編年」  
参照先 : [https://www.macaumemory.mo/category\\_55c31dc7ed86f568b3751d25](https://www.macaumemory.mo/category_55c31dc7ed86f568b3751d25)
- 在香港日本国総領事館  
「マカオ情勢を知る 4 つのポイント」  
参照先 : <https://www.hk.emb-japan.go.jp/files/100362368.pdf>

- マカオ新聞  
「マカオ概況」  
参照先：<https://www.macaushimbun.com/business>
- マカオ特別行政区 統計暨普查局（DSEC）  
「2025 年マカオ資料」  
参照先：[https://www.dsec.gov.mo/getAttachment/f1af5852-7a58-4647-899e-6e0fd2df4690/C\\_MN\\_PUB\\_2025\\_Y.aspx](https://www.dsec.gov.mo/getAttachment/f1af5852-7a58-4647-899e-6e0fd2df4690/C_MN_PUB_2025_Y.aspx)

## 第 2 章 マカオの経済・対外貿易動向

- マカオ特別行政区 統計暨普查局（DSEC）  
「対外商品貿易統計データベース」  
参照先：<https://www.dsec.gov.mo/EMTS.aspx?lang=en-US>
- マカオ特別行政区政府  
「2024 年通年および 12 月 対外商品貿易統計」  
参照先：<https://www.gov.mo/zh-hant/news/1121177/>
- 澳門經濟季刊（Macau Economic Quarterly）2025 年第 1 四半期  
参照先：[https://www.dsec.gov.mo/getAttachment/33edd0f8-43be-49bf-a497-d2b658a5ba65/C\\_BET\\_PUB\\_2025\\_Q1.aspx](https://www.dsec.gov.mo/getAttachment/33edd0f8-43be-49bf-a497-d2b658a5ba65/C_BET_PUB_2025_Q1.aspx)
- マレーシア・シンガポール関連報道  
「鶏卵・鶏肉輸出規制に関する報道」  
参照先：<https://www.8world.com/singapore/malaysian-chicken-export-ban-lifted-may-affect-local-2155471>  
参照先：<https://www.themalaysianinsight.com/chinese/s/403764>
- 澳門日報（TDM）  
「日本の禽流感と鶏卵価格動向」  
参照先：<https://www.tdm.com.mo/zh-hant/news-detail/814234>

## 第 3 章 鶏卵の供給・流通構造

- 重慶市長寿区 標杆養鶏股份合作社  
「鮮喔喔谷物卵」  
参照先：<http://www.cqbiaogan.com/product/120.html>
- 湖北省産鶏卵 香港・マカオ向け供給に関する報道  
参照先：<https://www.tkww.hk/a/202403/23/AP65fe2053e4b0916e28eb585a.html>  
参照先：<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1726184698697045505>

- 天門市全盛禽蛋貿易股份有限公司（湖北全盛生態農業發展有限公司）  
参照先：[https://www.hubei.gov.cn/pphb/pptj/202303/t20230314\\_4584374.shtml](https://www.hubei.gov.cn/pphb/pptj/202303/t20230314_4584374.shtml)
- 湖北神丹健康食品有限公司  
「会社概要」  
参照先：[http://www.shendan.com.cn/about\\_us\\_1/1.html](http://www.shendan.com.cn/about_us_1/1.html)
- マカオ新卸売市場に関する報道  
参照先：<https://www.exmoo.com/article/47180.html>
- 澳門批發市場（Wikipedia 中国語版）  
参照先：<https://zh.wikipedia.org/wiki/%E6%BE%B3%E9%96%80%E6%89%B9%E7%99%BC%E5%B8%82%E5%A0%B4>

#### 第4章 小売・販売チャネル

- DON DON DONKI（マカオ）  
参照先：<https://www.dondondonki.com/mo/>
- 新八佰伴（New Yaohan）  
参照先：<https://www.newyaohan.com/zh-hk/store-information/1>
- 來來超級市場（Royal Supermarket）  
参照先：<https://www.royalsupermarket.com.mo/>
- 新苗超級市場（San Miu Supermarket）  
参照先：<http://www.sanmiu.com/>
- 大昌食品市場（Dah Chong Hong Supermercado）  
参照先：[https://www.facebook.com/dchmacau/?locale=zh\\_HK](https://www.facebook.com/dchmacau/?locale=zh_HK)
- 28 環球食品市場（28 Global Food Mart）  
参照先：[https://www.facebook.com/28globalfoodmart/?locale=zh\\_HK](https://www.facebook.com/28globalfoodmart/?locale=zh_HK)
- 大柔屋（yoyo.casa）  
参照先：[https://www.facebook.com/yoyocasamacau/?locale=zh\\_HK](https://www.facebook.com/yoyocasamacau/?locale=zh_HK)
- 宏基超級市場（Vang Kei Supermarket）  
参照先：<https://www.facebook.com/p/%E5%AE%8F%E5%9F%BA%E8%B6%85%E7%B4%9A%E5%B8%82%E5%A0%B4-Vang-Kei-Supermarket-100050942933194/>

- マカオ市政署  
「街市通（ウエットマーケット情報）」  
参照先：<https://app.iam.gov.mo/marketinfo/?lang=zh#/>

## 第 5 章 消費・所得動向

- マカオ特別行政区 統計暨普查局（DSEC）  
「就業人口月収中位数」  
参照先：<https://www.dsec.gov.mo/ts/#!/step2/KeyIndicator/zh-MO/242>
- マカオ特別行政区 統計暨普查局（DSEC）  
「住戸収支調査」  
参照先：<https://www.dsec.gov.mo/zh-MO/Statistic?id=105>
- マカオ特別行政区 統計暨普查局（DSEC）  
「住戸収支調査 2023/2024」  
参照先：[https://www.dsec.gov.mo/getAttachment/c09e5049-4799-4771-907b-64abd0ed4a73/C\\_IDRF\\_PUB\\_2023\\_2024\\_Y.aspx](https://www.dsec.gov.mo/getAttachment/c09e5049-4799-4771-907b-64abd0ed4a73/C_IDRF_PUB_2023_2024_Y.aspx)

## 第 6 章 制度・規制・輸入手続き

- マカオ市政署（IAM）  
参照先：<https://www.iam.gov.mo/c/default/>
- マカオ特別行政区 印務局  
「第 7/2003 号法律」  
参照先：[https://bo.io.gov.mo/bo/i/2003/25/lei07\\_cn.asp](https://bo.io.gov.mo/bo/i/2003/25/lei07_cn.asp)
- マカオ特別行政区政府  
「進出口監管・貨物申告」  
参照先：<https://www.gov.mo/zh-hant/services/ps-1452/>
- マカオ市政署  
「輸入准照／申告書および検疫予約手続き」  
参照先：<https://www.iam.gov.mo/c/apms-food/adminDefault/22>
- マカオ市政署  
「食品安全情報・基準」  
参照先：<https://www.iam.gov.mo/foodsafety/c/index>

- マカオ特別行政区 印務局  
「第 5/2024 号行政法規 食品添加物使用基準」  
参照先 : [https://bo.io.gov.mo/bo/i/2024/07/regadm05\\_cn.asp](https://bo.io.gov.mo/bo/i/2024/07/regadm05_cn.asp)
- マカオ経済・科技發展局  
「電子通関サービス」  
参照先 : <https://eservice.edi.gov.mo/ecustoms/>
- 農林水産省 動物検疫所  
「家禽の畜産物の輸出（食用殻付き卵）」  
参照先 : <https://www.maff.go.jp/aqs/hou/exkakin3.html>
- マカオ市政署  
「卵および卵製品の衛生ガイドライン」  
参照先 : [https://www.iam.gov.mo/foodsafety/file?p=foodsafetyinfo/List22/23\\_e73e4904c3c2fda9a12d1b45c081c83d.pdf](https://www.iam.gov.mo/foodsafety/file?p=foodsafetyinfo/List22/23_e73e4904c3c2fda9a12d1b45c081c83d.pdf)